

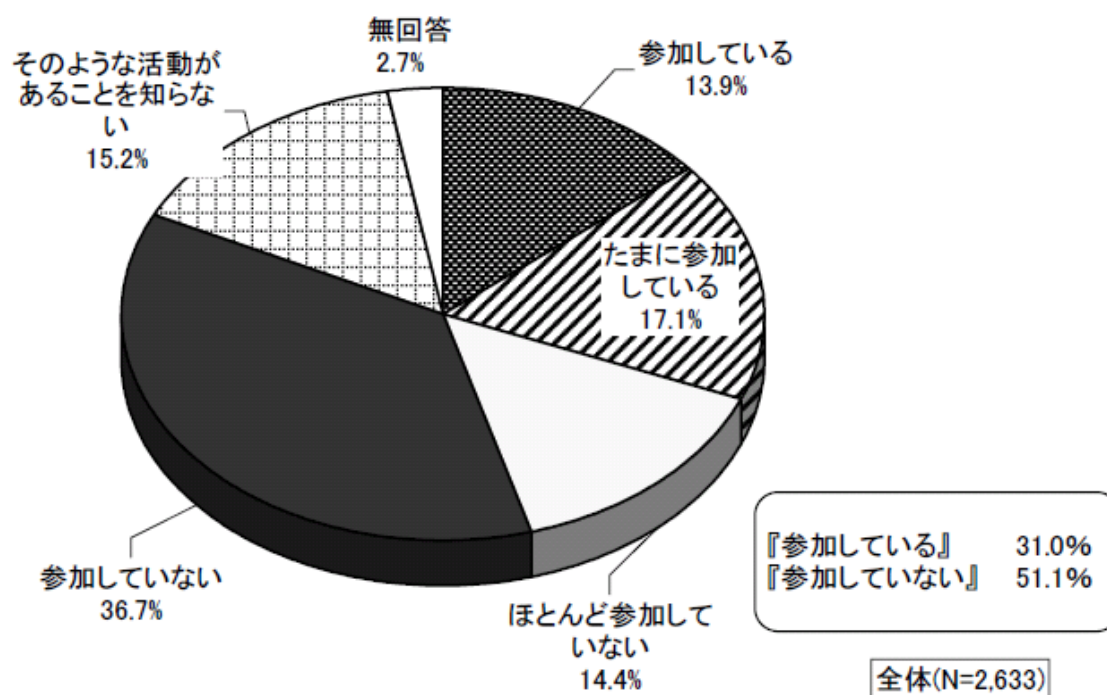
3 地域で行われていることへの認知度と参加状況

(1) 地域での助け合い、支え合い活動への参加状況について

問16．住民参加による地域での助け合い、支え合い活動（町内会などが実施する防犯，防災，環境美化などの活動，その他ボランティア）に参加していますか。あてはまるものを1つ選び，番号に○をつけてください。

地域での助け合い、支え合い活動への参加状況をみると、「参加している」と答えた人の割合は13.9%、「たまに参加している」は17.1%で、『参加している』（＝「参加している」＋「たまに参加している」）人の割合は31.0%となっている。一方、「ほとんど参加していない」は14.4%、「参加していない」は36.7%で、『参加していない』（＝「参加していない」＋「ほとんど参加していない」）人の割合は51.1%と、全体の過半数を占めている。なお、「そのような活動があることを知らない」と答えた人が15.2%みられる。

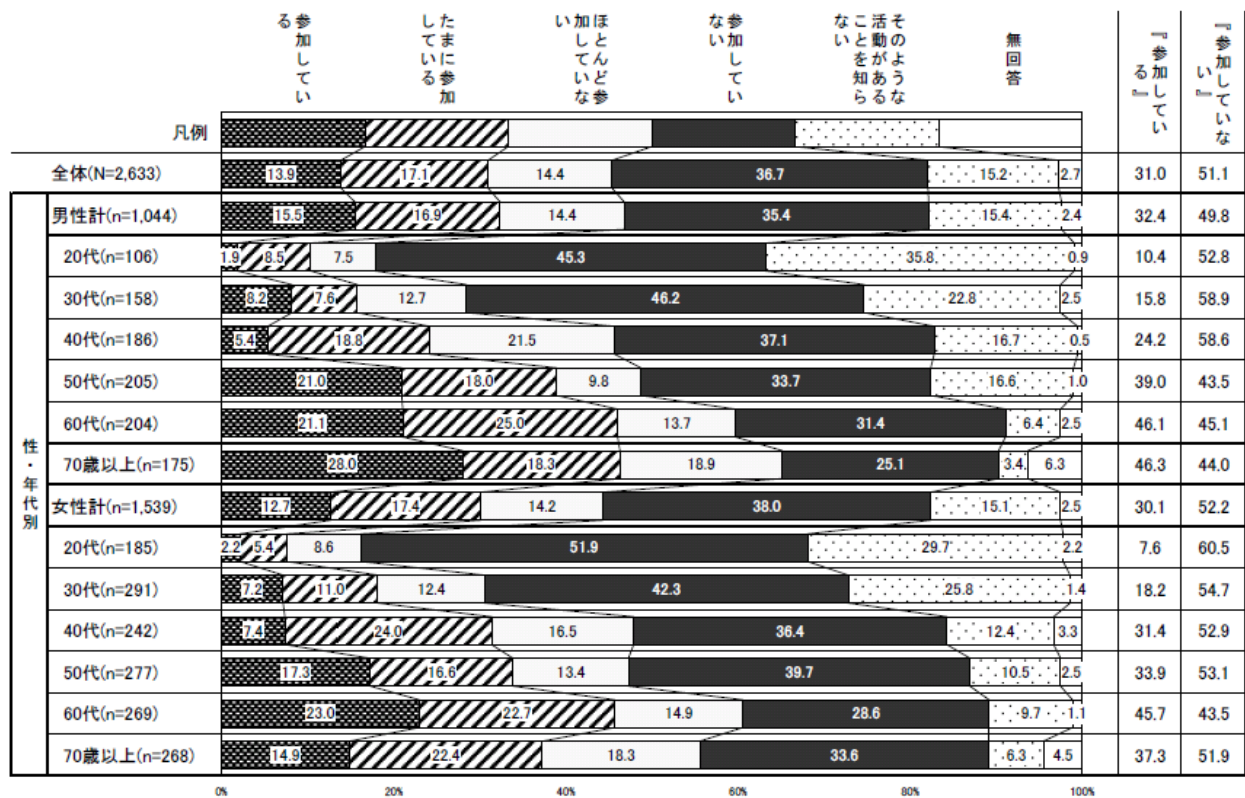
図表 地域での助け合い、支え合い活動への参加状況【全体】



性別にみると、『参加している』人は、男性が32.4%，女性は30.1%となっており，特に大きな差は見られない。

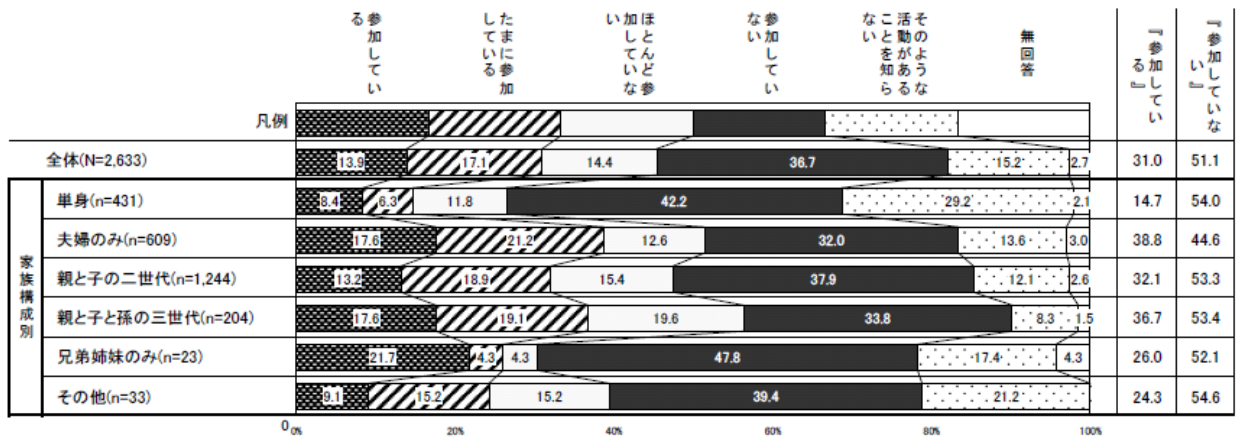
性・年代別にみると、『参加している』人は男性が70 歳以上（46.3%），女性は60 代（45.7%）がそれぞれ最も高くなっている。なお，最も低いのは男性，女性ともに20 代となっている。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への参加状況【性・年代別】



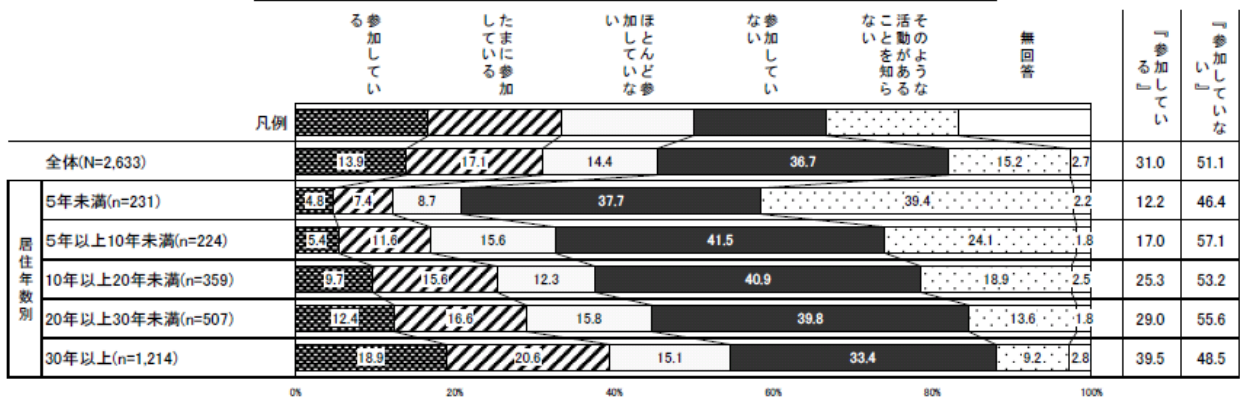
家族構成別にみると、『参加している』人の割合は「夫婦のみ」が38.8%で最も高く、次いで、「親と子と孫の三世代」(36.7%)、「親と子の二世代」(32.1%)の順となっている。なお、最も低いのは「単身」(14.7%)となっている。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への参加状況【家族構成別】



居住年数別にみると、『参加している』人の割合は「30年以上」が39.5%で最も高く、次いで「20年以上30年未満」(29.0%)、「10年以上20年未満」(25.3%)との順になっており、居住年数が長くなるほど参加率も高くなる傾向がみられる。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への参加状況【居住年数別】

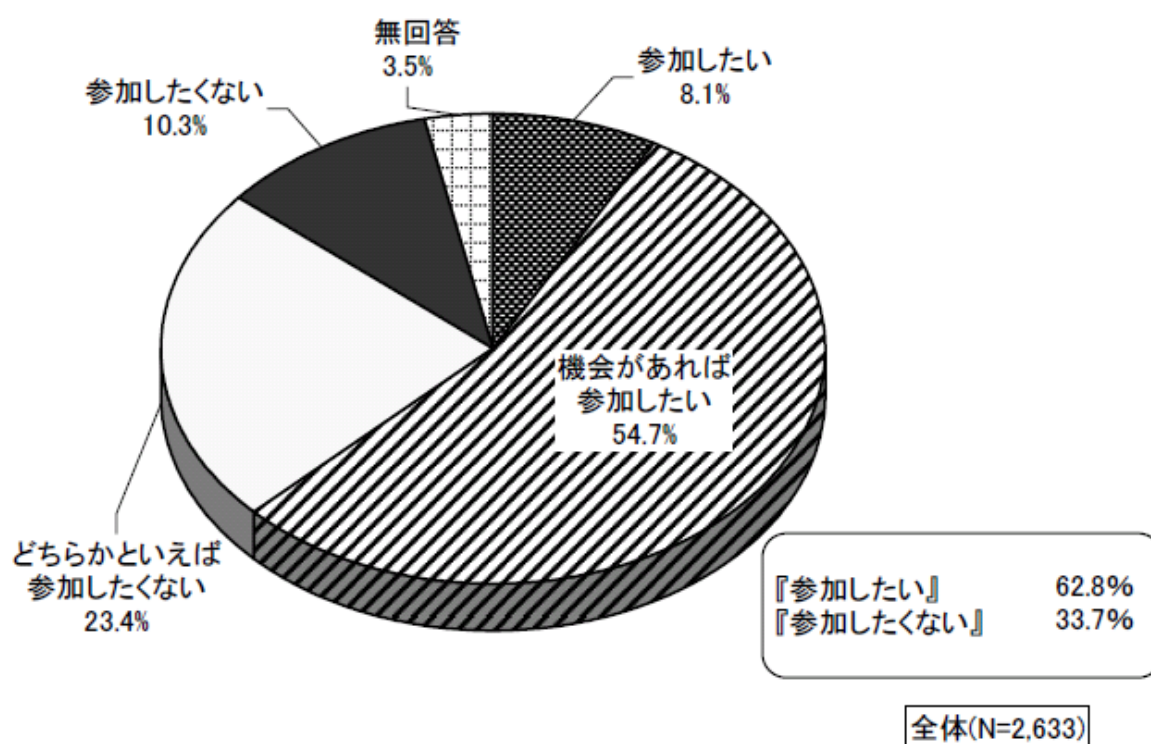


(2) 地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向

問17．今後住民参加による地域での助け合い、支え合い活動（町内などが実施する防犯，防災，環境美化などの活動，その他ボランティア）が行われる場合，どのように関わりたいとお考えですか。あてはまるものを1つ選び，番号に○をつけてください。

地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向をきいたところ、「参加したい」と答えた人の割合は8.1%，「機会があれば参加したい」は54.7%で，両者を合わせた『参加したい』人は62.8%と，全体の6割を超える。なお，「どちらかといえば参加したくない」は23.4%，「参加したくない」は10.3%で，両者を合わせた『参加したくない』人は33.7%となっている。

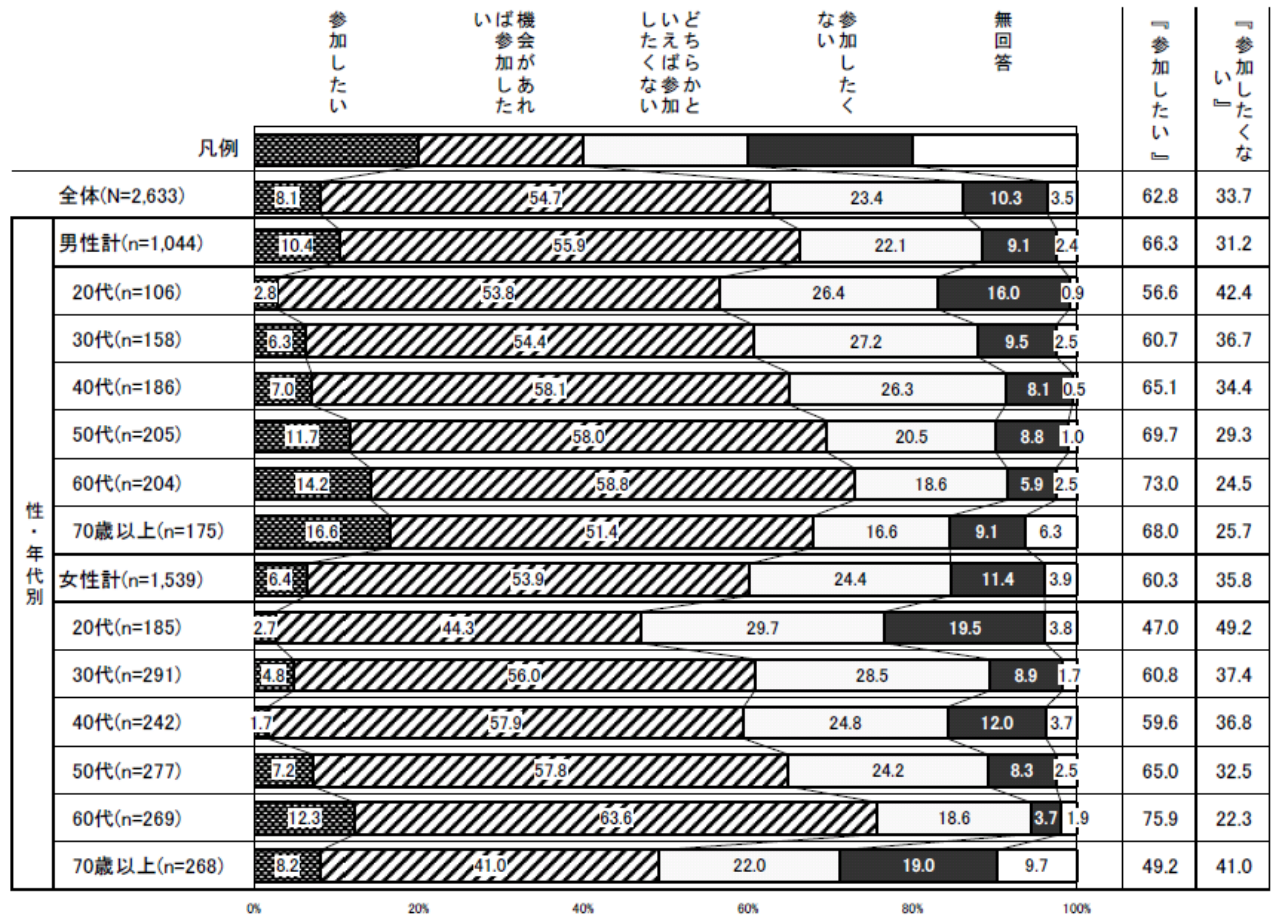
図表 地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向【全体】



性別にみると、『参加したい』人の割合は男性が66.3%，女性が60.3%となっており，男性の方が女性よりも上回っている。

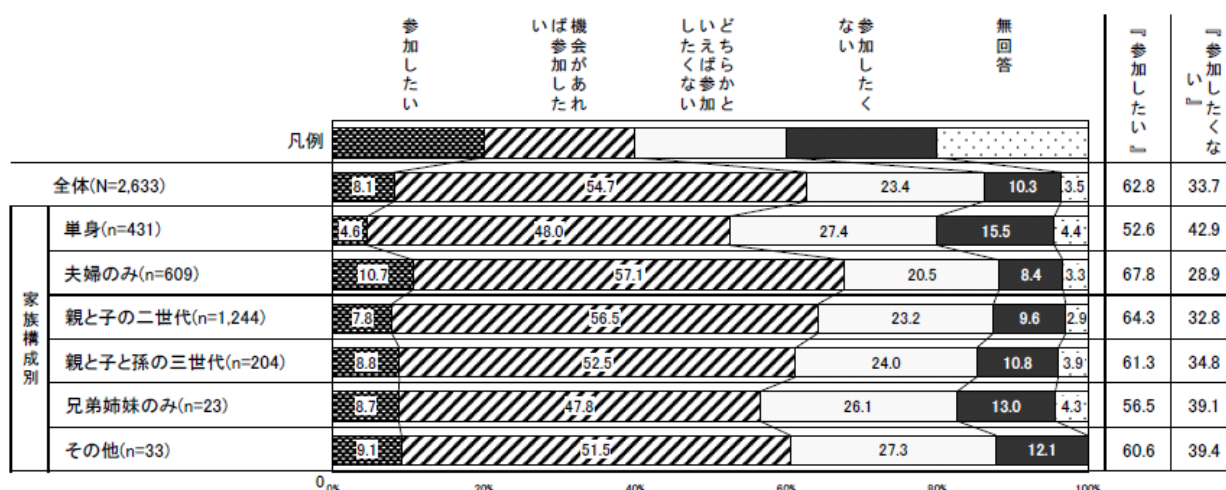
性・年代別にみると，男性，女性ともに60代が最も高く，20代が最も低い。なお，女性の70歳以上は60代までに比べて急激に割合が低くなっているのが特徴的である。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向【性・年代別】



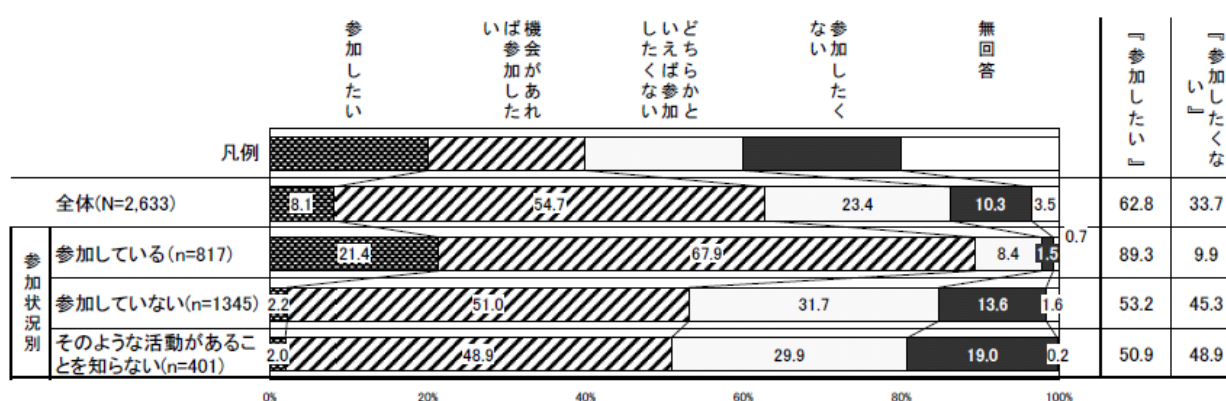
家族構成別にみると、『参加したい』人の割合は「夫婦のみ」が67.8%で最も高く、次いで「親と子の二世代」（64.3%）,「親と子と孫の三世代」（61.3%）の順となっている。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向【家族構成別】



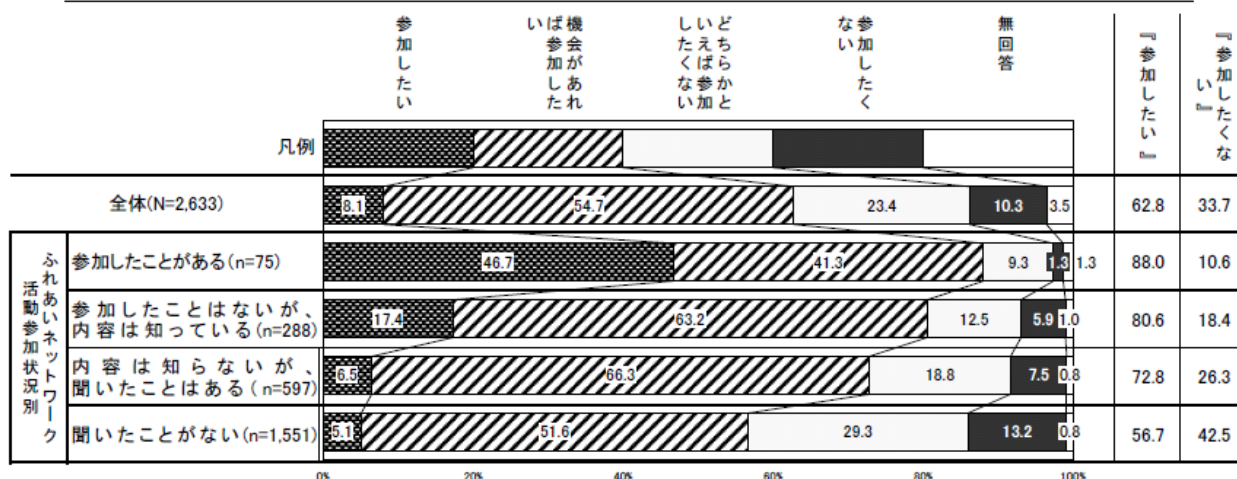
地域での助け合い、支え合い活動への参加状況別にみると、「参加している」と回答した人は『参加したい』人が89.3%と、他に比べて突出して高いが、「参加していない」、「そのような活動があることを知らない」も、それぞれ『参加したい』人が5割以上みられる。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向
【地域での助け合い、支え合い活動への参加状況別】



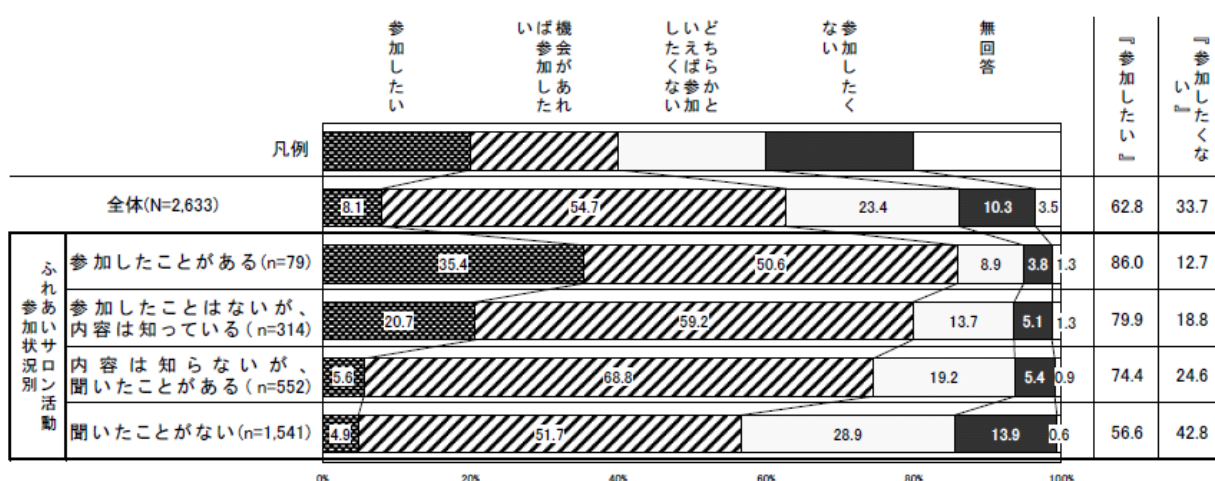
地域で行われている福祉活動のうち、「ふれあいネットワーク活動」の参加状況別にみると、「ふれあいネットワーク活動」の参加・認知度が高くなるほど『参加したい』人の割合も高くなる傾向がみられる。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向【ふれあいネットワーク活動の参加状況別】



地域で行われている福祉活動のうち、「ふれあいサロン活動」の参加状況別にみると、「ふれあいネットワーク活動」と同様、「ふれあいサロン活動」の参加・認知度が高くなるほど『参加したい』人の割合も高くなる傾向がみられる。

図表 地域での助け合い、支え合い活動への今後の参加意向【ふれあいサロン活動の参加状況別】



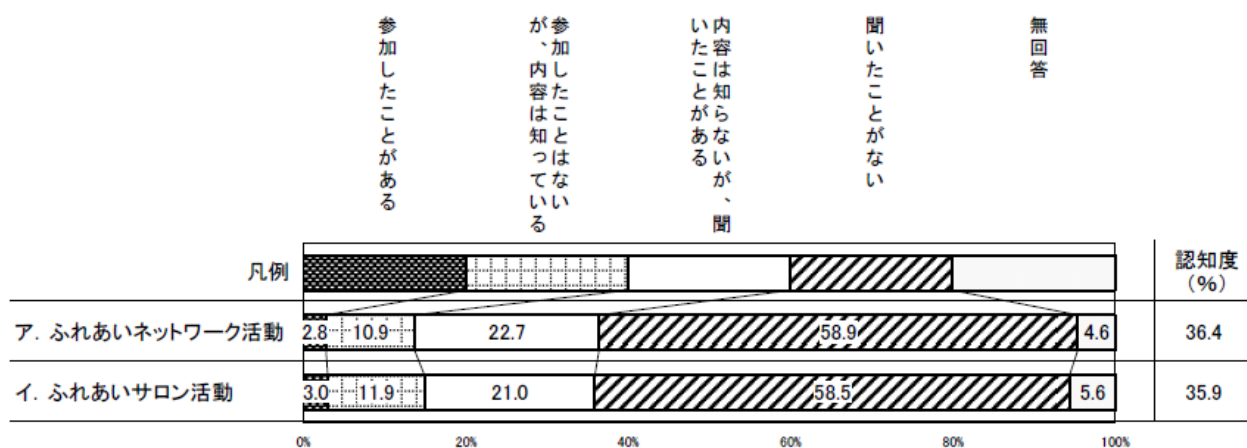
(3) 福祉活動の参加・認知度

問18．以下の地域で行われている福祉活動について，過去1年間の間に，聞いたり活動に参加したりしたことはありますか。ア・イのそれぞれについてあてはまるものを選び，番号に○をつけてください。

地域で行われている福祉活動の認知状況をみると，名前を知っている人（認知度＝「参加したことがある」＋「参加したことはないが，内容は知っている」＋「内容は知らないが，聞いたことがある」）の割合は「ふれあいネットワーク活動」が36.4%，「ふれあいサロン活動」は35.9%となっている。

「参加したことがある」と回答した人の割合をみると，いずれも1割に満たず，「ふれあいネットワーク活動」が2.8%，「ふれあいサロン活動」は3.0%となっている。

図表 福祉活動の参加・認知度【全体】



性別にみると、「ア・ふれあいネットワーク活動」の認知度は男性が32.3%，女性は39.6%，「イ・ふれあいサロン活動」の認知度は男性が30.4%，女性は40.2%となっており、いずれも女性の方が男性を上回っている。なお、「参加したことがある」と答えた人の割合は、男性、女性ともに、いずれの活動も1割に満たない。

性・年代別にみると、「ア・ふれあいネットワーク活動」の30代男性が前後するものの、いずれの活動も、男性、女性ともに年代が高くなるほど認知度も高くなる傾向がみられる。また、「参加したことがある」と答えた人の割合は全体的に低い、男性は70歳以上、女性は60代と70歳以上で1割程度みられる。

図表 福祉活動の参加・認知度【性・年代別】

単位：％

	サンプル数	ア. ふれあいネットワーク活動						イ. ふれあいサロン活動					
		参加したことがある	が、参加したことは知っている	いたことが知らないが、聞いたことがない	聞いたことがない	無回答	認知度	参加したことがある	が、参加したことは知っている	いたことが知らないが、聞いたことがない	聞いたことがない	無回答	認知度
全 体	2633	2.8	10.9	22.7	58.9	4.6	36.4	3.0	11.9	21.0	58.5	5.6	35.9
男 性	1044	2.5	10.3	19.5	63.3	4.3	32.3	2.6	9.2	18.6	65.0	4.6	30.4
20 代	106	-	2.8	12.3	84.0	0.9	15.1	-	4.7	5.7	88.7	0.9	10.4
30 代	158	1.9	3.8	5.7	86.1	2.5	11.4	1.3	2.5	7.6	86.1	2.5	11.4
40 代	186	-	4.3	18.3	75.8	1.6	22.6	-	3.2	18.8	76.9	1.1	22.0
50 代	205	0.5	11.2	21.5	64.4	2.4	33.2	0.5	11.2	17.6	67.8	2.9	29.3
60 代	204	2.9	14.7	27.5	51.5	3.4	45.1	2.9	12.3	26.0	54.9	3.9	41.2
70 歳 以 上	175	9.1	20.6	27.4	29.1	13.7	57.1	10.3	17.7	29.7	27.4	14.9	57.7
女 性	1539	2.9	11.6	25.1	56.1	4.3	39.6	3.2	13.9	23.1	54.3	5.5	40.2
20 代	185	0.5	2.7	8.1	86.5	2.2	11.3	2.2	3.2	5.4	87.0	2.2	10.8
30 代	291	0.3	4.5	17.9	75.6	1.7	22.7	1.7	6.5	19.2	70.8	1.7	27.4
40 代	242	-	7.0	26.4	62.8	3.7	33.4	0.4	12.0	25.6	57.9	4.1	38.0
50 代	277	1.1	11.9	32.9	51.6	2.5	45.9	1.1	14.1	27.8	53.8	3.2	43.0
60 代	269	7.1	15.2	35.3	38.7	3.7	57.6	6.3	18.2	33.5	35.7	6.3	58.0
70 歳 以 上	268	7.8	25.0	25.7	30.2	11.2	58.5	7.5	26.1	22.8	29.5	14.2	56.4

住居形態別にみると、「ア・ふれあいネットワーク活動」、「イ・ふれあいサロン活動」ともに、「持ち家（一戸建て）」の認知度が最も高く、次いで「賃貸住宅（一戸建て）」の順となっており、いわゆる一戸建ての人の認知度は、他を上回っているのが特徴的である。

図表 福祉活動の参加・認知度【住居形態別】

単位：％

	サンプル数	ア. ふれあいネットワーク活動						イ. ふれあいサロン活動					
		参加したことがある	が参加したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	参加したことがある	が参加したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度
全 体	2633	2.8	10.9	22.7	58.9	4.6	36.4	3.0	11.9	21.0	58.5	5.6	35.9
持ち家（一戸建て）	870	5.1	14.1	27.8	48.3	4.7	47.0	4.6	16.4	24.7	48.2	6.1	45.7
持ち家（集合住宅（マンション））	557	1.6	9.2	22.4	62.7	4.1	33.2	2.3	9.7	21.0	63.0	3.9	33.0
賃貸住宅（一戸建て）	87	3.4	8.0	32.2	52.9	3.4	43.6	3.4	13.8	26.4	54.0	2.3	43.6
賃貸住宅（アパート、マンション）	868	1.5	7.6	17.6	69.9	3.3	26.7	1.6	7.9	17.2	68.9	4.4	26.7
社 宅 ・ 寮	49	-	14.3	14.3	65.3	6.1	28.6	-	8.2	16.3	67.3	8.2	24.5
そ の 他	93	4.3	16.1	21.5	50.5	7.5	41.9	6.5	14.0	19.4	49.5	10.8	39.9

近所との関係別にみると、「ア・ふれあいネットワーク活動」、「イ・ふれあいサロン活動」ともに、近所との関係が親密なほど認知度も高くなる傾向がみられる。「参加したことがある」と回答した人の割合をみても、いずれも1割以下と低いものの、近所との関係が親密なほど参加率も高くなる傾向がみられ、相関がみられる。

図表 福祉活動の参加・認知度【近所との関係別】

単位：％

	サンプル数	ア. ふれあいネットワーク活動						イ. ふれあいサロン活動					
		参加したことがある	が参加したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	参加したことがある	が参加したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度
全 体	2633	2.8	10.9	22.7	58.9	4.6	36.4	3.0	11.9	21.0	58.5	5.6	35.9
何か困ったときに助け合う親しい人がいる	509	8.6	18.9	29.3	36.7	6.5	56.8	5.9	24.4	25.1	35.8	8.8	55.4
たまに家を訪問しあう人がいる	209	3.8	14.8	27.8	49.8	3.8	46.4	3.8	16.3	24.9	49.3	5.7	45.0
立ち話をする程度の人ならいる	693	2.6	12.0	26.8	53.0	5.6	41.4	3.6	12.4	27.0	50.8	6.2	43.0
あいさつをする程度の人ならいる	782	0.5	7.4	18.8	70.2	3.1	26.7	1.4	6.9	16.2	71.7	3.7	24.5
ほとんどいはいき合いはない	419	0.2	3.6	13.1	80.0	3.1	16.9	0.7	2.9	13.1	80.0	3.3	16.7

(4) 地域団体の利用度・認知度

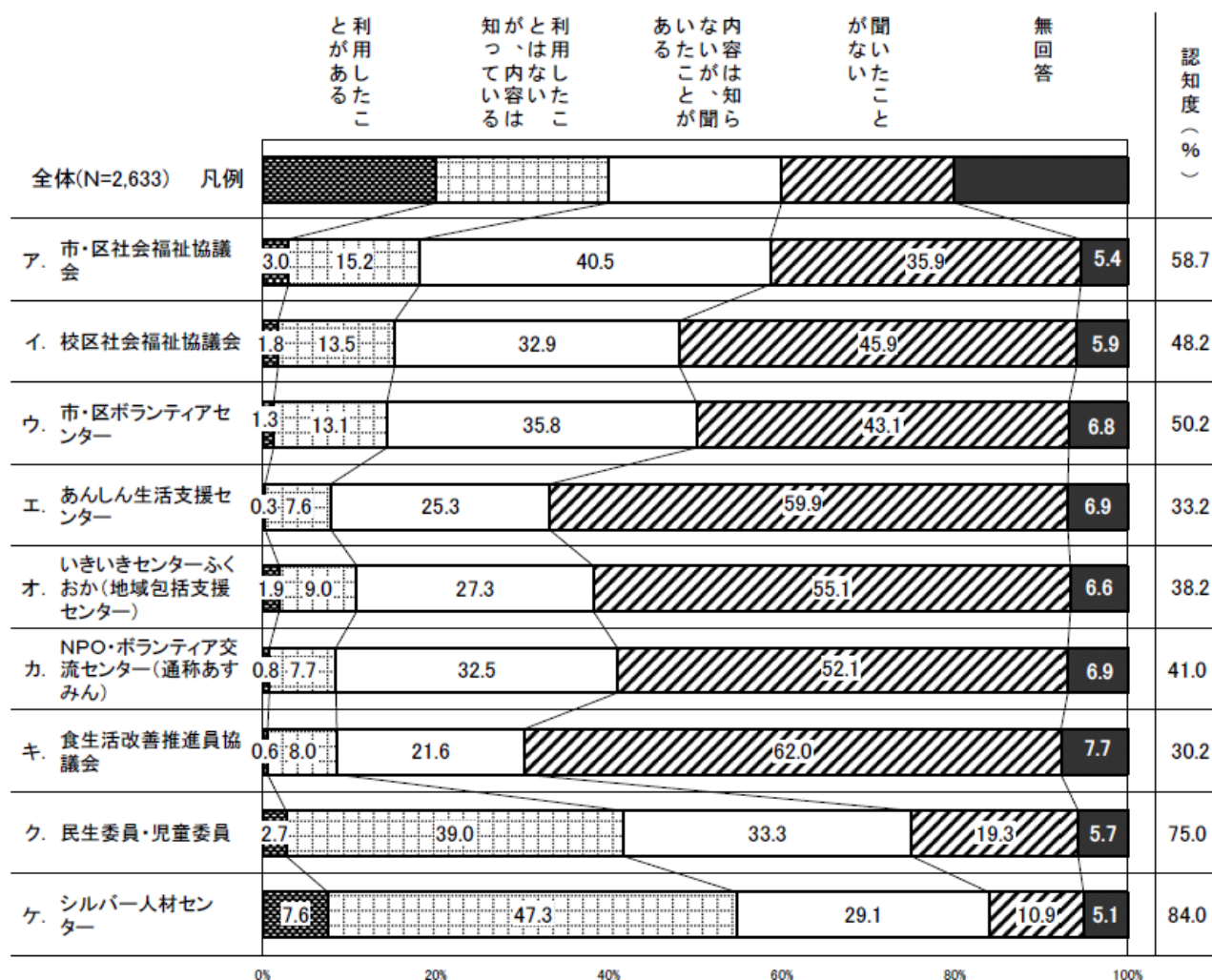
問19. 以下の地域の団体等について、過去1年の間に、聞いたり利用したりしたことはありますか。アからケのそれぞれについて、あてはまるものを選び、番号に○をつけてください。

地域の団体等についての認知状況をみると、名前を知っている人（認知度＝「利用したことがある」＋「利用したことはないが、内容は知っている」＋「内容は知らないが、聞いたことがある」）の割合は「シルバー人材センター」が84.0%で最も多く、次いで「民生委員・児童委員」（75.0%）、「市・区社会福祉協議会」（58.7%）、「市・区ボランティアセンター」（50.2%）、「校区社会福祉協議会」（48.2%）などの順となっている。

なお、最も割合が低いのは「食生活改善推進員協議会」（30.2%）である。

利用状況をみると、いずれも1割を超えているものはなく、最も割合が多いのは「シルバー人材センター」（7.6%）となっている。

図表 地域団体の利用・認知度【全体】

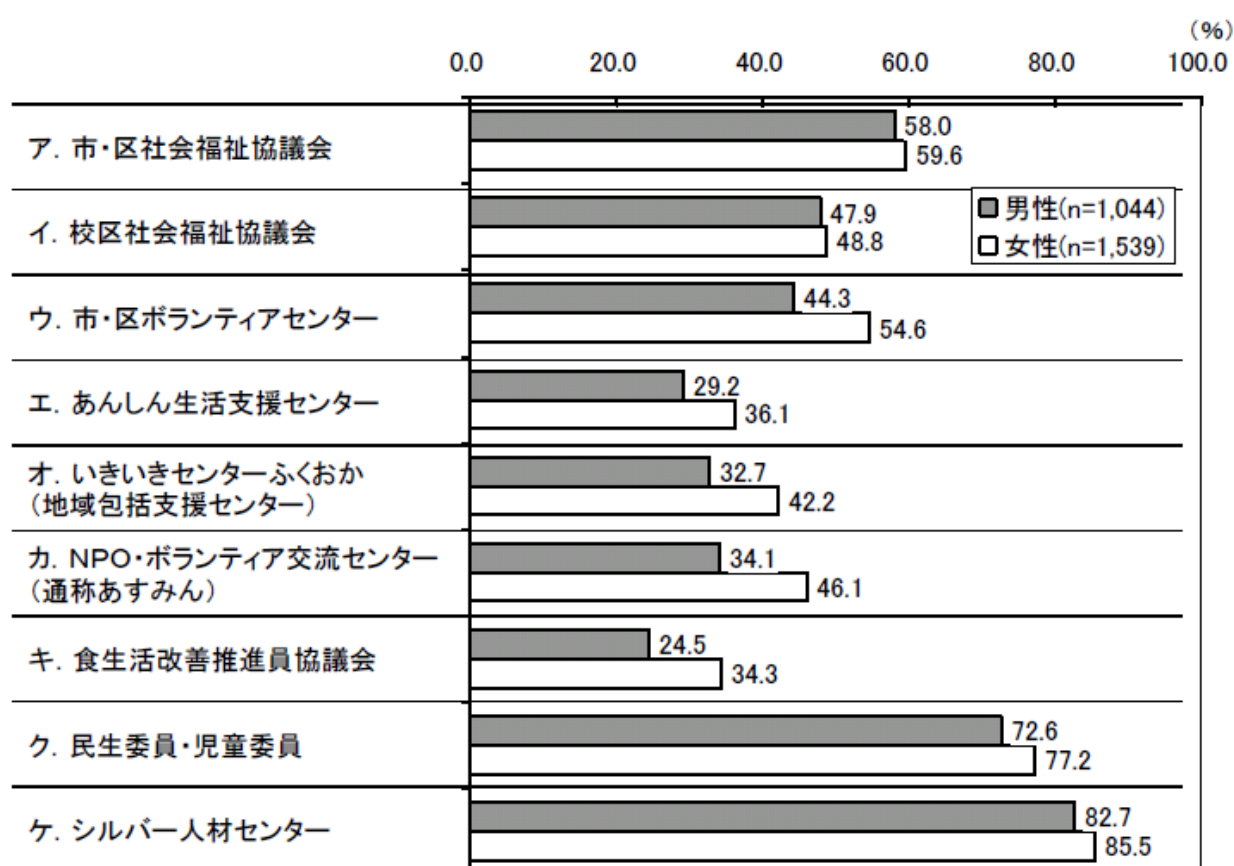


性別にみると、男性、女性ともに「ケ・シルバー人材センター」の認知度が最も高く、次いで「ク・民生委員・児童委員」、「ア・市・区社会福祉協議会」の順となっている。また、いずれの地域団体も認知度は女性の方が男性を上回っている。

性・年代別にみると、男性はいずれの地域団体においても、多少前後するところはあるものの、概ね年代が高くなるほど認知度も高くなる傾向がみられる。

女性も60代までは、多少前後するところはあるものの、概ね年代が高くなるほど認知度も高くなる傾向がみられるが、70歳以上の認知度は60代までに比べて低くなる。特に、「カ・NPO・ボランティア交流センター（通称あすみん）」（33.9%）の認知度は最も低くなっている。

図表 地域団体の認知度【性別】



図表 地域団体の利用・認知度【性・年代別】

単位：％

		サンプル数	ア. 市・区社会福祉協議会					イ. 校区社会福祉協議会					ウ. 市・区ボランティアセンター							
			利用したことがある	が、利用したことは知らないが、内容は知っている	聞いたことがないが、内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が、利用したことは知らないが、内容は知っている	聞いたことがないが、内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が、利用したことは知らないが、内容は知っている	聞いたことがないが、内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度
全	体	2633	3.0	15.2	40.5	35.9	5.4	58.7	1.8	13.5	32.9	45.9	5.9	48.2	1.3	13.1	35.8	43.1	6.8	50.2
男	性	1044	3.0	15.6	39.4	37.6	4.4	58.0	1.8	14.3	31.8	47.7	4.4	47.9	0.8	11.3	32.2	50.1	5.7	44.3
20	代	106	1.9	7.5	23.6	66.0	0.9	33.0	0.9	5.7	17.0	75.5	0.9	23.6	-	8.5	18.9	71.7	0.9	27.4
30	代	158	0.6	5.1	32.3	60.8	1.3	38.0	0.6	5.1	20.9	72.8	0.6	26.6	-	7.0	23.4	67.7	1.9	30.4
40	代	186	1.6	10.8	41.4	44.6	1.6	53.8	0.5	11.3	31.7	54.8	1.6	43.5	0.5	8.1	34.4	55.4	1.6	43.0
50	代	205	2.0	17.6	45.4	32.7	2.4	65.0	0.5	15.6	36.6	44.4	2.9	52.7	0.5	10.7	38.0	47.3	3.4	49.2
60	代	204	3.9	20.1	46.1	25.0	4.9	70.1	2.5	17.2	38.7	37.3	4.4	58.4	0.5	16.2	36.8	40.7	5.9	53.5
70	歳以上	175	7.4	28.6	38.3	12.6	13.1	74.3	5.7	26.9	36.6	16.6	14.3	69.2	2.9	16.0	33.1	30.3	17.7	52.0
女	性	1539	3.0	14.9	41.7	34.8	5.7	59.6	1.8	13.1	33.9	44.9	6.3	48.8	1.7	14.4	38.5	38.5	6.9	54.6
20	代	185	1.6	5.9	30.3	62.2	-	37.8	-	4.9	21.6	73.0	0.5	26.5	1.1	8.1	29.7	60.5	0.5	38.9
30	代	291	1.0	8.9	39.5	49.5	1.0	49.4	0.7	6.5	28.9	62.5	1.4	36.1	1.0	10.0	38.1	49.5	1.4	49.1
40	代	242	3.7	8.7	50.0	35.5	2.1	62.4	-	8.3	40.1	48.3	3.3	48.4	0.8	11.6	46.3	38.0	3.3	58.7
50	代	277	4.0	18.1	50.9	24.5	2.5	73.0	2.2	15.9	41.5	37.2	3.2	59.6	1.8	15.5	46.6	33.2	2.9	63.9
60	代	269	4.8	20.4	43.1	24.5	7.1	68.3	4.5	18.6	39.4	30.5	7.1	62.5	3.0	21.9	40.1	27.1	7.8	65.0
70	歳以上	268	2.6	24.3	33.6	19.8	19.8	60.5	3.0	21.6	29.5	25.0	20.9	54.1	2.2	17.2	28.7	28.0	23.9	48.1

		エ. あんしん生活支援センター						オ. いきいきセンターふくおか (地域包括支援センター)						カ. NPO・ボランティア交流センター（通称あすみん）						
		利用したことがある	が利用したことは知らないが、内容は知っている	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、内容は知っている	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、内容は知っている	聞いたことがない	無回答	認知度				
全	体	2633	0.3	7.6	25.3	59.9	6.9	33.2	1.9	9.0	27.3	55.1	6.6	38.2	0.8	7.7	32.5	52.1	6.9	41.0
男	性	1044	0.5	6.4	22.3	65.2	5.6	29.2	2.0	6.7	24.0	61.4	5.8	32.7	0.7	6.7	26.7	60.3	5.6	34.1
20	代	106	-	4.7	20.8	73.6	0.9	25.5	-	2.8	14.2	81.1	1.9	17.0	-	6.6	20.8	71.7	0.9	27.4
30	代	158	0.6	4.4	15.8	77.8	1.3	20.8	-	4.4	22.8	71.5	1.3	27.2	0.6	5.1	25.3	68.4	0.6	31.0
40	代	186	0.5	4.3	24.7	68.8	1.6	29.5	0.5	5.9	24.2	67.2	2.2	30.6	0.5	4.8	26.3	66.7	1.6	31.6
50	代	205	-	7.3	20.5	69.3	2.9	27.8	0.5	7.8	24.9	63.9	2.9	33.2	0.5	9.3	26.8	60.5	2.9	36.6
60	代	204	-	7.8	24.5	61.8	5.9	32.3	1.0	9.8	27.0	55.9	6.4	37.8	0.5	7.8	31.4	55.4	4.9	39.7
70	歳以上	175	1.7	9.1	25.7	44.6	18.9	36.5	9.7	7.4	26.9	38.3	17.7	44.0	1.7	6.3	26.3	45.7	20.0	34.3
女	性	1539	0.2	8.3	27.6	56.7	7.2	36.1	1.8	10.5	29.9	51.2	6.6	42.2	1.0	8.3	36.8	46.7	7.2	46.1
20	代	185	0.5	4.3	25.4	68.1	1.6	30.2	0.5	5.4	24.9	68.1	1.1	30.8	2.2	4.3	30.3	62.2	1.1	36.8
30	代	291	0.3	2.7	29.2	66.7	1.0	32.2	0.3	4.5	31.6	61.9	1.7	36.4	1.4	5.5	38.8	53.3	1.0	45.7
40	代	242	-	5.4	26.9	65.3	2.5	32.3	0.4	7.9	32.2	57.0	2.5	40.5	0.4	5.4	48.8	43.0	2.5	54.6
50	代	277	-	11.9	26.7	58.8	2.5	38.6	1.1	14.4	30.7	50.9	2.9	46.2	1.4	13.4	34.7	48.0	2.5	49.5
60	代	269	-	14.5	32.7	44.6	8.2	47.2	1.9	16.7	33.1	41.3	7.1	51.7	0.4	9.3	44.2	37.5	8.6	53.9
70	歳以上	268	-	9.7	24.3	39.9	26.1	34.0	6.3	12.7	24.6	33.6	22.8	43.6	0.4	10.4	23.1	39.9	26.1	33.9

			キ. 食生活改善推進員協議会					ク. 民生委員・児童委員					ケ. シルバー人材センター							
			利用したことがある	が利用したことは知らないが、内容はある	聞いたことがないが、内容は知らない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、内容はある	聞いたことがないが、内容は知らない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、内容はある	聞いたことがないが、内容は知らない	無回答	認知度			
全	体	2633	0.6	8.0	21.6	62.0	7.7	30.2	2.7	39.0	33.3	19.3	5.7	75.0	7.6	47.3	29.1	10.9	5.1	84.0
男	性	1044	0.2	6.7	17.6	69.3	6.2	24.5	1.9	37.0	33.7	23.0	4.4	72.6	7.1	45.5	30.1	12.7	4.6	82.7
20	代	106	-	3.8	8.5	86.8	0.9	12.3	-	13.2	26.4	59.4	0.9	39.6	1.9	25.5	35.8	35.8	0.9	63.2
30	代	158	-	2.5	14.6	80.4	2.5	17.1	1.9	14.6	36.7	44.9	1.9	53.2	2.5	38.6	32.9	24.7	1.3	74.0
40	代	186	0.5	4.3	14.0	79.0	2.2	18.8	0.5	33.3	38.7	25.8	1.6	72.5	4.8	43.5	37.6	12.4	1.6	85.9
50	代	205	-	9.3	16.6	71.2	2.9	25.9	1.0	45.9	36.6	14.1	2.4	83.5	4.9	53.7	29.8	8.3	3.4	88.4
60	代	204	-	8.8	24.0	61.3	5.9	32.8	1.5	50.5	34.8	9.3	3.9	86.8	7.8	55.9	27.0	4.9	4.4	90.7
70	歳以上	175	0.6	9.7	22.9	46.3	20.6	33.2	6.3	50.3	25.1	4.0	14.3	81.7	18.9	44.6	19.4	2.9	14.3	82.9
女	性	1539	0.9	8.8	24.6	57.6	8.1	34.3	3.2	40.8	33.2	16.8	5.9	77.2	8.1	49.1	28.3	9.7	4.8	85.5
20	代	185	-	3.8	13.0	81.1	2.2	16.8	1.6	17.3	33.0	47.0	1.1	51.9	4.3	31.9	38.9	23.8	1.1	75.1
30	代	291	0.3	3.4	20.6	73.5	2.1	24.3	3.8	26.8	41.6	26.8	1.0	72.2	3.1	44.7	35.7	14.8	1.7	83.5
40	代	242	-	3.7	26.9	65.7	3.7	30.6	2.1	44.6	40.5	9.9	2.9	87.2	4.1	57.4	31.4	4.5	2.5	92.9
50	代	277	0.7	11.9	30.3	53.1	4.0	42.9	2.2	53.1	33.2	9.0	2.5	88.5	9.4	57.8	26.0	4.7	2.2	93.2
60	代	269	3.3	14.9	30.5	42.0	9.3	48.7	3.7	52.8	27.5	8.6	7.4	84.0	15.2	53.2	19.7	5.2	6.7	88.1
70	歳以上	268	0.7	13.4	22.4	37.3	26.1	36.5	5.2	44.0	23.5	7.8	19.4	72.7	11.2	44.8	21.3	9.0	13.8	77.3

家族構成別にみると、「オ.いきいきセンターふくおか(地域包括支援センター)」の認知度で「兄弟姉妹のみ」(43.6%)が、「カ. NPO・ボランティア交流センター(通称あすみん)」の認知度で「親と子の二世帯」(47.8%)が最も高くなっている以外は、いずれの地域団体も「夫婦のみ」の認知度が最も高くなっている。

なお、「エ. あんしん生活支援センター」の認知度で「親と子と孫の三世帯」は18.2%と、唯一2割に満たない。

図表 地域団体の利用・認知度【家族構成別】

単位: %

年度: 79

		ア. 市・区社会福祉協議会						イ. 校区社会福祉協議会						ウ. 市・区ボランティアセンター					
		利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度			
全 体	2633	3.0	15.2	40.5	35.9	5.4	58.7	1.8	13.5	32.9	45.9	5.9	48.2	1.3	13.1	35.8	43.1	6.8	50.2
単身(同居人はいない)	431	2.8	13.5	32.5	44.1	7.2	48.8	1.4	12.5	23.2	55.2	7.7	37.1	0.9	10.2	29.0	50.8	9.0	40.1
夫 婦 の み	609	3.4	19.9	41.7	29.2	5.7	65.0	2.8	17.7	35.3	38.6	5.6	55.8	1.6	17.1	36.9	37.4	6.9	55.6
親と子の二世帯	1244	2.6	13.5	43.6	36.6	3.8	59.7	1.2	11.7	35.0	47.7	4.4	47.9	1.1	12.1	38.3	44.1	4.4	51.5
親と子と孫の三世帯	204	3.4	16.7	38.7	32.8	8.3	58.8	2.9	16.2	35.3	36.3	9.3	54.4	2.5	13.7	34.8	37.3	11.8	51.0
兄 弟 姉 妹 の み	23	4.3	8.7	43.5	39.1	4.3	56.5	4.3	8.7	26.1	56.5	4.3	39.1	4.3	8.7	26.1	52.2	8.7	39.1
そ の 他	33	6.1	15.2	30.3	48.5	-	51.6	3.0	9.1	27.3	60.6	-	39.4	-	12.1	33.3	51.5	3.0	45.4

		エ. あんしん生活支援センター						オ. いきいきセンターふくおか (地域包括支援センター)						カ. NPO・ボランティア交流センター(通称あすみん)					
		利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度			
全 体	2633	0.3	7.6	25.3	59.9	6.9	33.2	1.9	9.0	27.3	55.1	6.6	38.2	0.8	7.7	32.5	52.1	6.9	41.0
単身(同居人はいない)	431	0.2	7.4	19.7	63.3	9.3	27.3	3.0	10.0	19.0	60.1	7.9	32.0	0.9	8.4	25.5	56.1	9.0	34.8
夫 婦 の み	609	0.2	9.4	26.9	56.0	7.6	36.5	2.5	11.5	28.6	50.7	6.7	42.6	0.8	8.9	34.8	47.5	8.0	44.5
親と子の二世帯	23	-	8.7	17.4	65.2	8.7	26.1	-	8.7	21.7	60.9	8.7	30.4	-	4.3	43.5	43.5	8.7	47.8
親と子と孫の三世帯	33	-	6.1	12.1	78.8	3.0	18.2	3.0	6.1	15.2	69.7	6.1	24.3	-	3.0	24.2	69.7	3.0	27.2
兄 弟 姉 妹 の み	204	1.0	7.8	26.0	53.4	11.8	34.8	4.9	10.3	28.4	45.1	11.3	43.6	1.5	8.8	31.9	47.1	10.8	42.2
そ の 他	1244	0.2	6.4	27.0	62.1	4.3	33.6	0.8	7.3	30.4	56.9	4.6	38.5	0.7	6.8	35.0	53.1	4.3	42.5

		キ. 食生活改善推進員協議会						ク. 民生委員・児童委員						ケ. シルバー人材センター					
		利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度			
全 体	2633	0.6	8.0	21.6	62.0	7.7	30.2	2.7	39.0	33.3	19.3	5.7	75.0	7.6	47.3	29.1	10.9	5.1	84.0
単身(同居人はいない)	431	0.2	7.9	15.5	67.1	9.3	23.6	3.2	32.5	28.8	29.2	6.3	64.5	7.0	43.4	27.8	16.9	4.9	78.2
夫 婦 の み	609	1.3	9.0	26.6	54.5	8.5	36.9	2.6	45.3	33.5	12.5	6.1	81.4	10.0	49.4	27.6	7.2	5.7	87.0
親と子の二世帯	1244	0.4	7.4	21.8	65.2	5.2	29.6	2.4	38.7	35.0	19.7	4.2	76.1	6.8	49.4	29.4	10.8	3.6	85.6
親と子と孫の三世帯	204	0.5	7.8	22.5	56.4	12.7	30.8	3.4	43.1	32.8	13.2	7.4	79.3	6.4	46.1	31.4	7.4	8.8	83.9
兄 弟 姉 妹 の み	23	-	8.7	21.7	56.5	13.0	30.4	8.7	21.7	39.1	21.7	8.7	69.5	13.0	21.7	47.8	13.0	4.3	82.5
そ の 他	33	3.0	6.1	6.1	81.8	3.0	15.2	3.0	39.4	18.2	36.4	3.0	60.6	9.1	39.4	24.2	24.2	3.0	72.7

65 歳以上の同居人の有無別にみると、いずれの地域団体も『65 歳以上の同居がいる』（＝「65～74 歳の人のみいる」＋「75 歳以上の人のみいる」＋「65～74 歳の人のみいる、75 歳以上の人の両方いる」）人の認知度の方が高くなっている。特に、「イ・校区社会福祉協議会」の認知度は、『65 歳以上の同居人がいる』人（57.6%）の方が、「65 歳以上の同居人はいない」人（42.7%）よりも約15 ポイントも上回っているのが特徴的である。

図表 地域団体の利用・認知度【65 歳以上の同居人の有無別】

単位：%

		ア. 市・区社会福祉協議会						イ. 校区社会福祉協議会						ウ. 市・区ボランティアセンター					
		利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度
全 体	2633	3.0	15.2	40.5	35.9	5.4	58.7	1.8	13.5	32.9	45.9	5.9	48.2	1.3	13.1	35.8	43.1	6.8	50.2
65～74 歳の人のみがいる	488	5.5	20.5	41.6	26.4	5.9	67.6	4.3	19.9	36.1	34.2	5.5	60.3	2.7	20.3	36.3	33.4	7.4	59.3
75 歳以上の人のみがいる	407	2.5	22.4	36.6	23.6	15.0	61.5	2.2	20.9	31.2	28.5	17.2	54.3	1.2	15.5	31.2	32.9	19.2	47.9
65～74歳の人のみいる、75歳以上の人の両方いる	119	6.7	21.8	37.8	16.0	17.6	66.3	2.5	18.5	37.0	26.1	16.0	58.0	2.5	13.4	36.1	28.6	19.3	52.0
65 歳以上の同居人はいない	1606	2.1	11.4	41.7	43.2	1.7	55.2	0.9	9.5	32.3	55.2	2.2	42.7	0.8	10.4	36.9	49.7	2.2	48.1

		エ. あんしん生活支援センター						オ. いきいきセンターふくおか (地域包括支援センター)						カ. NPO・ボランティア交流センター (通称あすみん)					
		利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度
全 体	2633	0.3	7.6	25.3	59.9	6.9	33.2	1.9	9.0	27.3	55.1	6.6	38.2	0.8	7.7	32.5	52.1	6.9	41.0
65～74 歳の人のみがいる	488	0.4	12.1	28.7	51.8	7.0	41.2	1.4	13.3	31.1	46.9	7.2	45.8	1.0	9.6	36.1	46.1	7.2	46.7
75 歳以上の人のみがいる	407	1.0	8.4	23.8	46.7	20.1	33.2	7.9	11.3	23.8	38.3	18.7	43.0	0.5	9.1	26.0	43.7	20.6	35.6
65～74歳の人のみいる、75歳以上の人の両方いる	119	—	6.7	27.7	44.5	21.0	34.4	4.2	5.9	32.8	38.7	18.5	42.9	0.8	4.2	29.4	44.5	21.0	34.4
65 歳以上の同居人はいない	1606	0.1	6.0	24.7	66.9	2.3	30.8	0.3	7.4	26.8	63.1	2.4	34.5	0.9	6.9	33.5	56.6	2.1	41.3

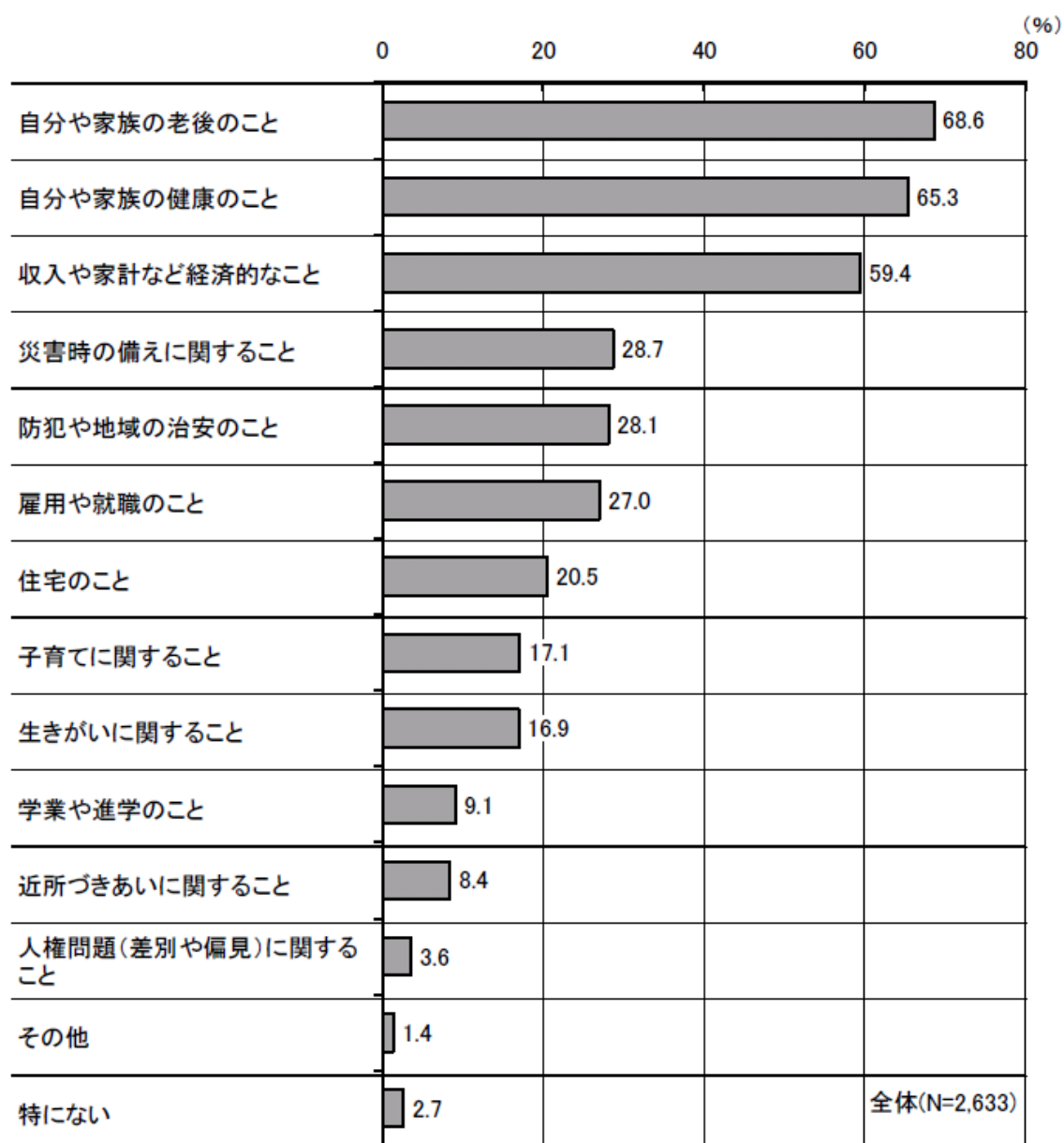
		キ. 食生活改善推進員協議会						ク. 民生委員・児童委員						ケ. シルバー人材センター					
		利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度	利用したことがある	が利用したことは知っている	内容は知らないが、聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	認知度
全 体	2633	0.6	8.0	21.6	62.0	7.7	30.2	2.7	39.0	33.3	19.3	5.7	75.0	7.6	47.3	29.1	10.9	5.1	84.0
65～74 歳の人のみがいる	488	1.4	12.3	27.9	50.6	7.8	41.6	2.3	48.4	32.2	11.9	5.3	82.9	11.9	54.5	22.5	5.9	5.1	88.9
75 歳以上の人のみがいる	407	0.5	11.1	20.4	46.9	21.1	32.0	7.1	45.2	21.4	10.3	16.0	73.7	13.5	43.2	22.1	7.6	13.5	78.8
65～74歳の人のみいる、75歳以上の人の両方いる	119	1.7	6.7	26.1	46.2	19.3	34.5	0.8	44.5	33.6	4.2	16.8	78.9	10.1	46.2	26.1	3.4	14.3	82.4
65 歳以上の同居人はいない	1606	0.4	6.1	19.9	70.5	3.2	26.4	1.8	34.5	36.7	24.8	2.2	73.0	4.7	46.3	33.1	13.8	2.1	84.1

(5) 悩みや不安について

問 8 . 普段 , 生活するうえで , どのような悩みや不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選び , 番号に ○ をつけてください。

普段 , 生活するうえで , どのような悩みや不安を感じているか聞いたところ , 「自分や家族の老後のこと」が68.6%で最も多く , 次いで「自分や家族の健康のこと」(65.3%) , 「収入や家計など経済的なこと」(59.4%) , 「災害時の備えに関すること」(28.7%) , 「防犯や地域の治安のこと」(28.1%) , 「雇用や就職のこと」(27.0%) などの順となっている。

図表 悩みや不安について【全体】※複数回答



性別にみると、男性と女性の違いはあまりみられなかったが、「災害時の備えに関すること」は女性が男性よりも高くなっていた。

性・年代別にみると、男性、女性ともに20代では「雇用と就職のこと」、20代と30代では「収入や家計など経済的なこと」の割合が高く、年代の低い層では雇用や経済の問題は大きいことがわかる。男性は40代以上で「自分や家族の老後のこと」の割合が最も高く、これからくる老後の問題に不安がみられる。一方女性は、40代と50代は男性と同様「自分や家族の老後のこと」の割合が最も高くなっているが、60代では「自分や家族の老後のこと」と「自分や家族の健康のこと」の割合が同率で最も高く、70歳以上では「自分や家族の健康のこと」の割合が最も高くなっており、男性よりも女性の後期高齢者を含む年代で健康の不安が高いことがわかる。

図表 悩みや不安について【性・年代別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	近所づきあいに関すること	収入や家計など経済的なこと	雇用や就職のこと	学業や進学のこと	住宅のこと	防犯や地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	人権問題（差別や偏見）に関すること	その他	特になし
全体	2633	65.3	68.6	16.9	17.1	8.4	59.4	27.0	9.1	20.5	28.1	28.7	3.6	1.4	2.7
男性	1044	63.2	69.6	18.4	17.0	7.1	59.6	26.1	9.0	21.0	27.3	24.9	4.5	1.1	1.9
20代	106	50.9	48.1	29.2	18.9	4.7	67.9	52.8	28.3	16.0	31.1	22.6	12.3	1.9	2.8
30代	158	55.7	59.5	22.2	41.1	6.3	70.3	31.6	7.0	30.4	32.9	23.4	5.7	0.6	1.9
40代	186	60.8	72.6	17.2	31.7	7.0	59.1	31.7	19.4	26.3	29.0	26.9	1.6	1.1	2.7
50代	205	65.9	75.6	14.1	9.8	5.9	67.8	30.7	5.9	23.4	22.4	22.0	3.9	0.5	—
60代	204	68.1	75.5	20.1	5.4	5.9	57.8	17.6	1.0	16.7	30.4	27.9	3.4	1.5	2.5
70歳以上	175	72.6	75.4	13.7	1.7	12.6	38.3	4.0	1.1	12.0	21.1	26.3	4.0	1.1	2.3
女性	1539	66.9	68.0	15.9	17.3	9.2	59.2	27.4	9.0	20.1	28.2	31.3	3.1	1.6	3.2
20代	185	57.8	49.2	20.0	20.0	7.6	64.3	50.3	7.0	16.2	34.1	31.9	5.4	1.6	3.8
30代	291	61.5	62.9	14.4	44.0	12.4	64.9	36.4	16.2	27.8	35.1	28.5	3.4	3.1	2.1
40代	242	64.0	73.1	17.4	30.2	8.3	65.3	37.6	25.2	27.7	26.0	27.7	3.3	2.1	2.5
50代	277	72.9	80.1	15.5	6.1	9.4	63.2	30.3	4.0	21.3	25.6	34.7	3.2	1.1	1.8
60代	269	76.6	76.6	17.5	3.3	7.4	63.9	14.1	0.7	20.1	26.0	32.7	1.5	1.5	2.2
70歳以上	268	66.4	60.4	12.7	1.1	9.0	34.7	3.0	1.1	6.7	23.1	31.7	2.2	0.4	7.1

家族構成別にみると、「親と子と孫の三世代」が「自分や家族の健康のこと」（68.6％）が最も高くなっている。なお、「単身（同居人はいない）」は「生きがいに関すること」（24.6％）が「親と子の二世代」は「子育てに関すること」（25.6％）、「住宅のこと」（23.6％）、「学業や進学のこと」（14.3％）が、それぞれ他の世帯を上回っている一方で、「夫婦のみ」は「雇用や就職のこと」（16.1％）の割合が他の世帯を10 ポイント以上下回っているのが特徴的である。

図表 悩みや不安について【家族構成別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	近所づきあいに関すること	収入や家計など経済的なこと	雇用や就職のこと	学業や進学のこと	住宅のこと	と防犯や地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	見入権問題（差別や偏見）に関すること	その他	特にな
全 体	2633	65.3	68.6	16.9	17.1	8.4	59.4	27.0	9.1	20.5	28.1	28.7	3.6	1.4	2.7
単身（同居人はいない）	431	54.3	62.6	24.6	6.3	7.2	59.6	26.9	3.0	18.3	25.5	26.7	2.6	1.2	3.0
夫 婦 の み	609	70.0	74.9	17.7	6.9	9.5	51.6	16.1	1.5	16.9	28.2	32.7	3.6	2.3	3.1
親 と 子 の 二 世 代	1244	66.6	68.2	15.0	25.6	8.2	62.4	31.5	14.3	23.6	28.5	27.7	4.1	1.0	2.0
親と子と孫の三世代	204	68.6	66.2	10.8	21.6	7.8	60.3	28.9	12.7	15.7	26.5	27.5	3.4	1.0	4.4
兄 弟 姉 妹 の み	23	69.6	73.9	13.0	8.7	8.7	65.2	30.4	-	13.0	26.1	39.1	-	-	8.7
そ の 他	33	63.6	60.6	12.1	15.2	9.1	72.7	33.3	6.1	24.2	36.4	27.3	-	3.0	3.0

住居形態別にみると、「持ち家（一戸建て）」および「持ち家（集合住宅（マンション））」に住む人の悩みや不安では、「自分や家族の老後のこと」、「自分や家族の健康のこと」、「災害時の備えに関すること」の割合が高く、固定的な住居形態においては、自分や家族の健康や老後という全体で共通の悩みだけでなく、持ち家という不動産保有リスクから災害への不安も高いことがうかがえる。「賃貸住宅（一戸建て）」および「賃貸住宅（アパート・マンション）」に住む人の悩みや不安では、「自分や家族の老後のこと」と同じ、またはそれ以上に「収入や家計など経済的なこと」の割合が高い。「賃貸住宅（アパート・マンション）」、「社宅・寮」では、「子育てに関すること」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 悩みや不安について【住居形態別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	近所づきあいに関すること	収入や家計など経済的なこと	雇用や就職のこと	学業や進学のこと	住宅のこと	と防犯や地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	見入権問題（差別や偏見）に関すること	その他	特にな
全 体	2633	65.3	68.6	16.9	17.1	8.4	59.4	27.0	9.1	20.5	28.1	28.7	3.6	1.4	2.7
持ち家（一戸建て）	870	69.3	70.7	14.7	13.1	8.5	49.4	20.0	6.8	11.4	30.0	30.9	2.8	1.3	3.7
持ち家（集合住宅（マンション））	557	68.4	71.5	17.1	16.3	9.3	56.9	26.2	11.8	11.7	26.2	30.2	2.2	1.8	1.6
賃 貸 住 宅（一戸建て）	87	64.4	75.9	12.6	18.4	4.6	75.9	29.9	14.9	41.4	25.3	23.0	1.1	2.3	2.3
賃貸住宅（アパート・マンション）	868	59.6	65.9	19.1	22.0	7.5	69.9	34.2	9.4	32.8	28.8	25.8	4.8	1.3	2.3
社 宅 ・ 寮	49	61.2	51.0	24.5	24.5	8.2	32.7	26.5	12.2	22.4	18.4	18.4	4.1	-	4.1
そ の 他	93	60.2	62.4	14.0	10.8	5.4	65.6	31.2	5.4	19.4	22.6	32.3	10.8	2.2	5.4

近所との関係別にみると、「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」と回答した人は「自分や家族の健康のこと」（68.6％）が、「ほとんど付き合いはない」と回答した人は「収入や家計など経済的なこと」（66.3％）が、その他はいずれも「自分や家族の老後のこと」の割合が最も高くなっている。

なお、「雇用や就職のこと」については、近所との関係が希薄になるにつれて悩みや不安を感じる人の割合が高くなる傾向がみられる。

図表 悩みや不安について【近所との関係別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	近所づきあいに関すること	収入や家計など経済的なこと	雇用や就職のこと	学業や進学のこと	住宅のこと	防犯や地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	見人権問題（差別や偏見）に関すること	その他	特にない
全体	2633	65.3	68.6	16.9	17.1	8.4	59.4	27.0	9.1	20.5	28.1	28.7	3.6	1.4	2.7
何か困ったときに助け合う親しい人がいる	509	68.6	67.8	16.1	16.5	8.3	53.8	18.9	9.0	16.1	27.9	30.6	2.0	0.8	4.1
たまに家を訪問しあう人がいる	209	66.0	68.9	12.0	22.5	8.6	60.3	22.5	14.8	20.1	27.3	32.1	4.3	-	2.4
立ち話をする程度の人ならいる	693	69.3	71.7	15.0	15.9	8.2	57.1	23.4	6.8	18.6	27.8	29.7	2.3	1.9	2.6
あいさつをする程度の人ならいる	782	65.1	69.8	16.4	19.3	8.6	62.4	33.4	10.7	23.1	29.5	30.3	4.6	1.5	1.8
ほとんど付き合いはない	419	57.3	64.9	25.3	13.8	8.6	66.3	34.4	7.4	24.8	27.7	21.2	5.5	1.7	2.9

近所づきあいの満足度別にみると、「自分や家族の老後のこと」の割合がいずれも7割程度で最も高くなっているものの、『近所づきあいに不満がある』人はいずれの項目の割合が『近所づきあいに満足している』，「どちらともいえない」を上回っている。特に「近所づきあいに関すること」（19.8％）、「住宅のこと」（30.2％），「防犯や地域の治安のこと」（36.9％）は、『近所づきあいに満足している』，「どちらともいえない」を大きく上回っているのが特徴的である。

図表 悩みや不安について【近所づきあいの満足度別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	近所づきあいに関すること	収入や家計など経済的なこと	雇用や就職のこと	学業や進学のこと	住宅のこと	防犯や地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	見人権問題（差別や偏見）に関すること	その他	特にない
全体	2633	65.3	68.6	16.9	17.1	8.4	59.4	27.0	9.1	20.5	28.1	28.7	3.6	1.4	2.7
今の近所づきあいに満足している	1490	66.1	68.5	15.1	16.6	5.4	56.5	24.4	9.4	17.0	27.2	28.9	2.8	1.3	3.3
今の近所づきあいに不満がある	490	68.8	70.0	20.2	24.3	19.8	66.3	34.3	11.8	30.2	36.9	32.2	5.9	1.8	1.0
どちらともいえない	632	62.3	69.9	19.1	13.1	6.6	62.7	28.3	6.5	21.8	24.2	26.3	3.8	1.1	2.7

健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランス別にみると、「収入や家計など経済的なこと」は「負担が増えても、維持・充実に努めるべき」と回答した人（49.0％）は全体の59.4％に比べて10 ポイント以上下回っているが、「負担が減るよう、縮小・廃止すべき」と回答した人（68.9％）は全体より約10 ポイント高く、経済的な悩みがあるかどうかと税金の負担感と関連する傾向がわかる。

図表 悩みや不安について【健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランス別】※複数回答

単位：％

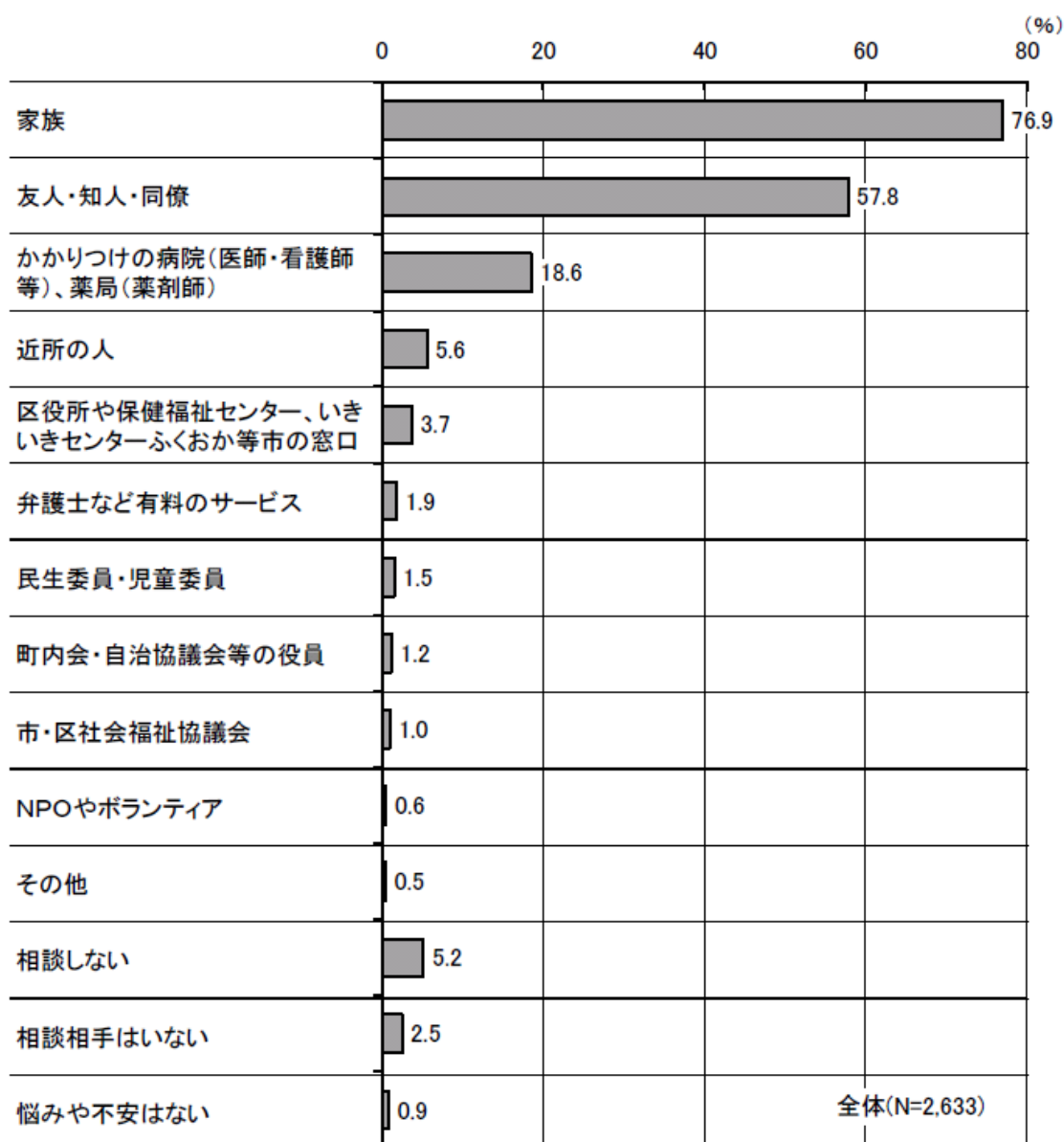
	サンプル数	と自分や家族の健康のこと	と自分や家族の老後のこと	生きがいに關すること	子育てに關すること	近所づきあいに關すること	収入や家計など経済的なこと	雇用や就職のこと	学業や進学のこと	住宅のこと	と防犯や地域の治安のこと	災害時の備えに關すること	人権問題（差別や偏見）に關すること	その他	特にない
全 体	2633	65.3	68.6	16.9	17.1	8.4	59.4	27.0	9.1	20.5	28.1	28.7	3.6	1.4	2.7
負担が増えても、維持・充実に努めるべき	435	67.6	70.8	19.1	17.2	9.2	49.0	25.3	8.3	16.1	32.6	29.4	4.1	1.1	3.0
負担は現状維持のまま、内容を見直すべき	1864	65.0	68.0	16.8	17.8	7.9	61.1	27.3	9.4	20.8	27.5	29.1	3.4	1.3	2.5
負担が減るよう、縮小・廃止すべき	148	60.8	68.9	15.5	12.8	8.8	68.9	31.1	8.1	22.3	24.3	20.3	4.1	0.7	3.4
そ の 他	70	65.7	75.7	11.4	15.7	7.1	70.0	37.1	12.9	40.0	38.6	37.1	5.7	4.3	1.4

(6) 相談相手

問 9 . 悩みや不安について、主にどこに（だれに）相談していますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

悩みや不安の相談相手についてきいたところ、「家族」が76.9%で最も多く、次いで「友人・知人・同僚」（57.8%）、「かかりつけの病院（医師・看護師等）、薬局（薬剤師）」（18.6%）などの順となっている。行政機関の相談窓口である「区役所や保健福祉センター、いきいきセンターふくおか等市の窓口」をあげた人は3.7%と低く、「民生委員・児童委員」（1.5%）、「市・区社会福祉協議会」（1.0%）も低い水準にとどまっている。なお、「相談しない」と答えた人が5.2%、「相談相手はいない」と答えた人が2.5%みられる。

図表 相談相手【全体】※複数回答



性別にみると、男性は女性より「相談しない」「相談相手はいない」が高く、女性は「家族」「友人・知人・同僚」「かかりつけの病院（医師・看護師等）、薬局（薬剤師）」の割合が男性よりも高い。先に悩みの内容では男性も女性もあまり違いがなかったことを考え合わせると、男性の方が、悩みを抱え込む傾向がややうかがえるといえる。

性・年代別にみると、男性、女性ともに20代で「友人・知人・同僚」が高い。男性、女性ともに60代以上の年代は「かかりつけの病院（医師・看護師等）、薬局（薬剤師）」の割合が4人に1人以上と高くなっているのが特徴的である。

図表 相談相手【性・年代別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	家族	近所の人	友人・知人・同僚	町内会・自治協議会等の役員	民生委員・児童委員	区役所や保健福祉センター、いきいきセンター、ふくおか等市の窓口	市・区社会福祉協議会	NPOやボランティア	かかりつけの病院（医師・看護師等）、薬局（薬剤師）	弁護士など有料のサービス	その他	相談しない	相談相手はいない	悩みや不安はない
全体	2633	76.9	5.6	57.8	1.2	1.5	3.7	1.0	0.6	18.6	1.9	0.5	5.2	2.5	0.9
男性	1044	73.1	3.1	49.8	1.6	1.3	3.5	1.2	0.4	17.7	2.1	0.4	7.5	3.7	1.0
20代	106	67.0	-	67.0	-	-	1.9	-	0.9	3.8	1.9	-	10.4	1.9	-
30代	158	75.9	1.9	62.7	-	0.6	1.9	0.6	-	1.9	1.3	0.6	7.0	3.2	0.6
40代	186	71.5	4.3	51.6	0.5	0.5	0.5	-	-	9.1	1.1	0.5	8.6	6.5	1.6
50代	205	72.7	1.5	45.4	1.0	-	4.4	2.0	-	13.7	1.0	-	12.2	2.0	-
60代	204	73.0	4.4	42.6	2.9	2.0	4.9	2.0	1.0	25.5	3.9	-	5.9	3.4	1.0
70歳以上	175	78.3	5.1	40.0	4.6	4.6	6.9	2.3	0.6	45.1	3.4	1.1	1.7	4.6	2.3
女性	1539	79.5	7.2	63.0	0.9	1.5	3.8	0.8	0.6	19.0	1.8	0.6	3.7	1.6	0.8
20代	185	80.0	3.2	80.5	-	0.5	-	-	-	4.3	-	0.5	3.2	1.1	0.5
30代	291	78.7	6.2	76.3	0.7	0.7	2.7	0.3	-	11.7	1.4	1.0	5.2	0.7	-
40代	242	80.6	3.7	63.2	0.4	0.4	1.7	-	-	9.9	1.2	0.4	4.5	1.2	1.7
50代	277	82.3	9.4	66.4	-	0.4	4.3	0.7	1.1	18.8	1.4	0.7	5.1	1.8	0.4
60代	269	78.4	8.9	55.4	1.9	1.5	5.6	2.2	1.5	26.8	4.1	0.4	3.7	3.0	1.1
70歳以上	268	77.2	10.1	40.7	1.9	5.2	6.7	1.1	1.1	38.1	1.9	0.7	0.4	1.9	1.1

近所との関係別にみると、「近所の人」と「かかりつけの病院（医師・看護師等）、薬局（薬剤師）」は、概ね、近所との関係が希薄になるほど「相談相手」として回答した人の割合が少なくなる傾向がみられる。

図表 相談相手【近所との関係別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	家族	近所の人	友人・知人・同僚	町内会・自治協議会等の役員	民生委員・児童委員	区役所や保健福祉センター・いきいきセンターふくおか等市の窓口	市・区社会福祉協議会	NPOやボランティア	（薬剤師） かかりつけの病院（医師・看護師等）、薬局	弁護士など有料のサービス	その他	相談しない	相談相手はいない	悩みや不安はない
全 体	2633	76.9	5.6	57.8	1.2	1.5	3.7	1.0	0.6	18.6	1.9	0.5	5.2	2.5	0.9
何か困ったときに助け合う親しい人がいる	509	80.9	16.3	68.6	3.3	3.1	6.1	1.6	1.0	27.3	2.8	0.4	1.2	-	1.4
たまに家を訪問しあう人がいる	209	83.7	11.0	64.6	1.4	2.4	2.9	0.5	0.5	21.1	2.4	-	3.8	0.5	1.0
立ち話をする程度の人ならいる	693	80.7	4.9	55.4	1.0	0.6	4.0	1.3	0.7	21.9	1.6	0.6	4.5	2.6	0.7
あいさつをする程度の人ならいる	782	76.7	0.9	53.6	0.4	1.2	2.3	0.8	0.4	14.3	1.7	0.8	7.4	3.2	0.8
ほとんど付き合いはない	419	65.6	-	55.1	0.2	1.0	3.6	0.5	0.2	9.8	1.7	0.5	8.1	5.0	0.7

近所づきあいの満足度別にみると、満足している人は不満がある人とどちらともいえない人と比べて「近所の人」がやや多い。

図表 相談相手【近所づきあいの満足度別】※複数回答

単位：％

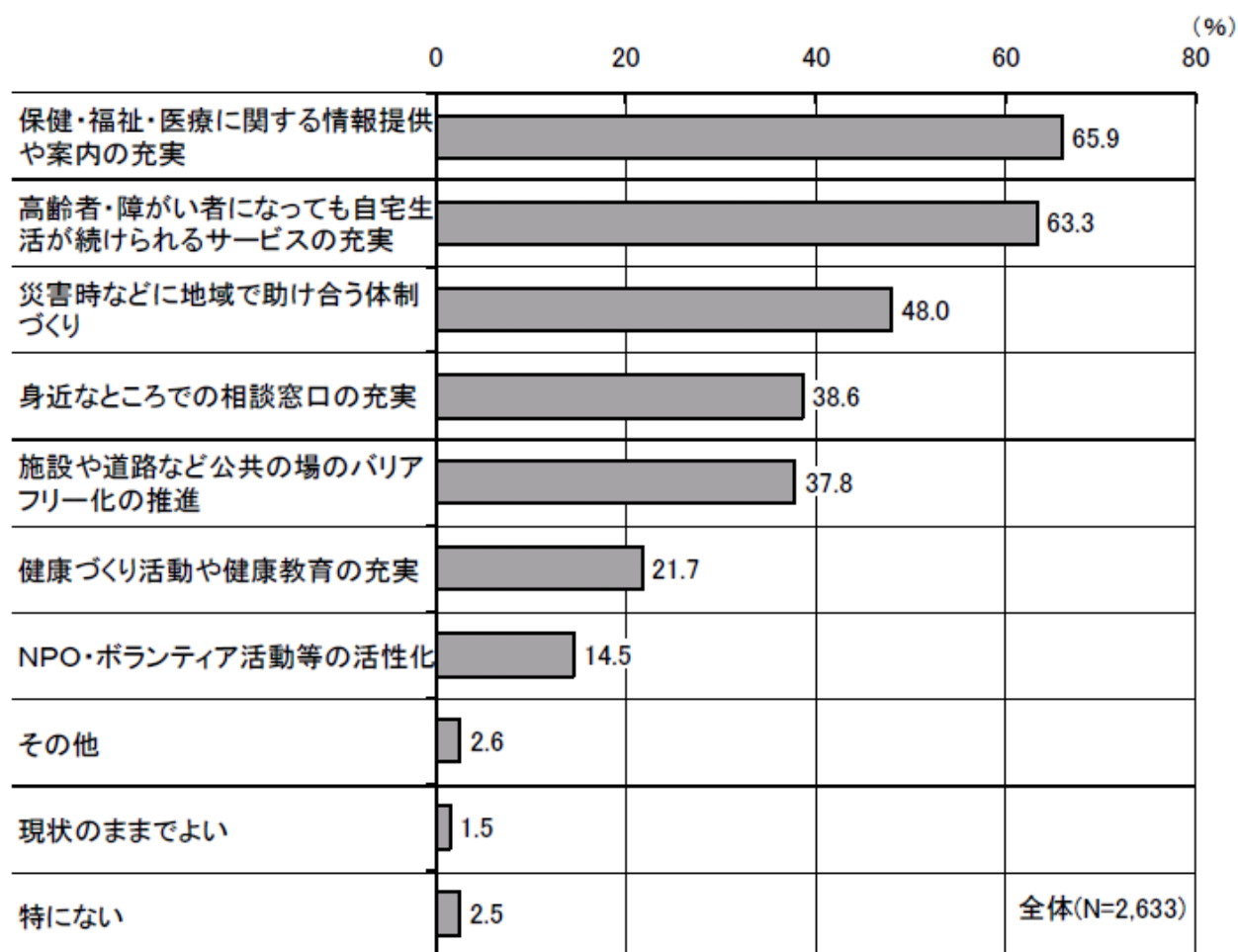
	サンプル数	家族	近所の人	友人・知人・同僚	町内会・自治協議会等の役員	民生委員・児童委員	区役所や保健福祉センター、いきいきセンターふくおか等市の窓口	市・区社会福祉協議会	NPOやボランティア	（薬剤師） かかりつけの病院（医師・看護師等）、薬局	井護士など有料のサービス	その他	相談しない	相談相手はいない	悩みや不安はない
全 体	2633	76.9	5.6	57.8	1.2	1.5	3.7	1.0	0.6	18.6	1.9	0.5	5.2	2.5	0.9
今の近所づきあいに満足している	1490	80.9	8.2	59.8	1.6	1.5	3.6	0.9	0.7	20.5	2.3	0.5	4.6	1.3	1.1
今の近所づきあいに不満がある	490	78.0	2.7	60.6	0.4	1.8	4.3	0.8	0.4	17.3	2.0	0.8	3.5	3.5	0.2
どちらともいえない	632	68.5	1.6	52.2	0.6	0.9	3.6	1.4	0.3	15.3	0.8	0.3	8.2	4.6	0.8

(7) 今後、福岡市が健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策

問20 . 今後、福岡市では、住みよいまちをつくるために、健康・医療・福祉の分野において、どのような施策に特に力を入れて取り組むべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

今後、福岡市が健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策をきいたところ、「保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実」が65.9%で最も多く、次いで「高齢者・障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実」(63.3%)、「災害時などに地域で助け合う体制づくり」(48.0%)、「身近なところでの相談窓口の充実」(38.6%)、「施設や道路など公共の場のバリアフリー化の推進」(37.8%)などの順となっている。

図表 健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策【全体】※複数回答



性別にみると、男性と女性との違いはあまりみられなかった。

性・年代別にみると、男性、女性ともに20代から40代は「保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実」の割合が最も高くなっている。

50代以上についてみると、いずれの性・年代も「高齢者・障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実」の割合が7割前後と、在宅サービスへの取り組みが強く求められている。

図表 健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策【性・年代別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実	身近なところでの相談窓口の充実	施設や道路など公共の場の整備	高齢者・障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実	健康づくり活動や健康教育の充実	NPO・ボランティア活動の活性化	災害時などに地域で助け合う体制づくり	その他	現状のままでよい	特にない
全体	2633	65.9	38.6	37.8	63.3	21.7	14.5	48.0	2.6	1.5	2.5
男性	1044	64.8	38.2	36.4	60.2	22.8	14.1	47.5	1.6	1.4	3.5
20代	106	62.3	34.9	36.8	42.5	23.6	18.9	47.2	4.7	1.9	0.9
30代	158	60.8	36.7	36.7	43.7	20.9	8.9	47.5	1.9	1.3	5.7
40代	186	60.2	34.4	37.6	53.2	16.7	12.4	37.1	2.7	1.6	4.8
50代	205	63.9	39.0	36.6	69.3	20.0	15.6	44.9	0.5	0.5	2.9
60代	204	68.6	44.6	32.8	67.6	28.4	17.2	53.4	1.0	1.5	3.9
70歳以上	175	71.4	37.1	37.7	74.9	26.3	12.0	54.9	0.6	2.3	2.3
女性	1539	67.0	39.0	39.0	65.3	20.9	14.8	48.7	3.2	1.6	1.8
20代	185	64.9	27.6	42.2	54.1	21.6	13.0	51.4	6.5	2.2	2.2
30代	291	66.7	33.7	36.1	50.9	16.5	14.8	44.7	5.5	1.7	1.4
40代	242	71.9	40.9	42.6	56.6	17.8	14.5	46.3	4.1	0.4	1.7
50代	277	69.0	40.4	46.6	72.9	22.7	14.4	48.0	1.4	1.1	2.5
60代	269	66.2	46.1	37.2	77.7	24.5	18.2	49.8	1.1	1.1	0.4
70歳以上	268	63.1	41.8	31.0	76.1	22.4	13.4	53.4	1.1	2.6	2.6

家族構成別にみると、「単身（同居人はいない）」と「親と子の二世帯」は「保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実」が、「夫婦のみ」と「親と子と孫の三世帯」は「高齢者・障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実」が、「兄弟姉妹のみ」は「災害時などに地域で助け合う体制づくり」（65.2%）がそれぞれ最も高くなっており、家族構成によって違いがみられる。

図表 健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策【家族構成別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実	身近なところでの相談窓口の充実	施設や道路など公共の場のバリアフリー化の推進	在宅生活が継続できるようになるためのサービスの実施	高齢者・障がい者の生活の充実に努める	健康づくり活動や健康教育の充実	NPO・ボランティア活動の活性化	災害時などに地域で助け合う体制づくり	その他	現状のままでよい	特にない
全 体	2633	65.9	38.6	37.8	63.3	21.7	14.5	48.0	2.6	1.5	2.5	
単身（同居人はいない）	431	63.6	37.4	33.6	63.1	18.6	14.4	44.8	2.8	2.8	3.0	
夫 婦 の み	609	65.4	43.5	38.1	69.0	23.8	16.6	54.8	2.5	1.5	2.0	
親 と 子 の 二 世 帯	1244	67.5	37.5	39.4	59.7	22.1	14.1	45.8	2.8	1.0	2.4	
親と子と孫の三世帯	204	66.7	35.8	40.2	68.6	18.1	14.7	47.1	2.0	2.0	1.0	
兄 弟 姉 妹 の み	23	52.2	43.5	39.1	52.2	8.7	8.7	65.2	-	4.3	-	
そ の 他	33	75.8	27.3	30.3	63.6	33.3	3.0	48.5	-	-	9.1	

健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランス別にみると、「負担が増えても、維持・充実に努めるべき」と回答した人は、「高齢者・障がい者になっても自宅生活が続けられるサービス」と「保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実」がより高くなっている。

図表 健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策

【健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランス別】※複数回答

単位：％

	サンプル数	保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実	身近なところでの相談窓口の充実	施設や道路など公共の場のバリアフリー化の推進	在宅生活が継続できるようになるためのサービスの実施	高齢者・障がい者の生活の充実に努める	健康づくり活動や健康教育の充実	NPO・ボランティア活動の活性化	災害時などに地域で助け合う体制づくり	その他	現状のままでよい	特にない
全 体	2633	65.9	38.6	37.8	63.3	21.7	14.5	48.0	2.6	1.5	2.5	
負担が増えても、維持・充実に努めるべき	435	70.1	42.3	42.1	71.3	23.4	18.2	53.3	2.3	0.7	1.6	
負担は現状維持のまま、内容を見直すべき	1864	68.5	39.6	39.7	64.7	22.5	14.4	49.4	2.7	1.6	1.5	
負担が減るよう、縮小・廃止すべき	148	50.0	30.4	18.2	52.0	19.6	13.5	35.1	-	3.4	12.8	
そ の 他	70	68.6	37.1	40.0	61.4	15.7	12.9	52.9	10.0	-	-	

65 歳以上の同居人の有無別にみると、「65～74 歳の人のみいる」人、「75 歳以上の人のみいる」人、「65～74 歳の人、75 歳以上の人の両方いる」人はいずれも「高齢者・障がい者になっても自宅

生活が続けられるサービスの充実」が7割以上で最も高くなっており、「65 歳以上の同居人はいない」人よりも20 ポイント近く上回っている。

図表 健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策【65 歳以上の同居人の有無別】

単位：％

	サ ン プ ル 数	保 健 ・ 福 祉 ・ 案 内 の 充 実 す る 情 報 提 供 や ・ 案 内 の 充 実	口 身 近 な と こ ろ で の 相 談 窓	の 施 バ 設 リ ア 道 路 な ど 公 共 の 推 進 場	る サ ー ビ ス の 充 実	高 齢 者 ・ 障 が い 者 に な つ て も 自 宅 生 活 が 続 け ら れ	育 健 康 づ く り 活 動 や 健 康 教	動 等 の 活 性 化	N P O ・ ボ ラ ン テ ィ ア 活	合 災 害 時 な ど に 地 域 で 助 け	そ の 他	現 状 の ま ま で よ い	特 に な い
全 体	2633	65.9	38.6	37.8	63.3	21.7	14.5	48.0	2.6	1.5	2.5		
65 ～ 74 歳 の 人 の み が い る	488	68.2	44.1	37.5	74.0	26.6	18.2	53.3	1.8	1.8	2.5		
75 歳 以 上 の 人 の み が い る	407	64.9	36.9	35.9	74.2	18.7	12.3	49.9	1.5	1.7	1.7		
65～74歳の人、75歳以上 の 人 の 両 方 が い る	119	61.3	45.4	37.0	77.3	20.2	13.4	55.5	0.8	1.7	2.5		
65 歳 以 上 の 同 居 人 は い な い	1606	65.9	37.0	38.5	56.5	21.2	14.2	45.6	3.2	1.3	2.6		

介護を必要とする家族の有無別にみると、「病院や介護施設等で生活している人のみいる」人と「介護を必要とする家族はいない」人は「保健・福祉・医療に関する情報提供や案内の充実」の割合（いずれも66.7%）が最も高くなっている一方、「在宅で一緒に生活している人のみいる」人は「高齢者や障がい者になっても自宅生活が続けられるサービスの充実」（77.1%）が最も高くなっており、介護を必要とする家族が同居する人から、在宅サービスの充実が求められている。

なお、「病院や介護施設で生活、在宅の両方がいる」人については、サンプル数が少ないため、分析から除外している。

図表 健康・医療・福祉の分野で力を入れて取り組むべき施策【介護を必要とする家族の有無別】※複数回答

単位：％

	サ ン プ ル 数	保 健 ・ 福 祉 ・ 医 療 に 関 連 す る 情 報 ・ 提 供 や 案 内 の 充 実	身 近 な と こ ろ で の 相 談 窓 口 の 充 実	施 設 や 道 路 な ど の 公 共 の 推 進 場 所 の 充 実	高 齢 者 ・ 障 が い 者 に な っ て も 自 宅 生 活 が 続 け ら れ る サ ー ビ ス の 充 実	健 康 づ く り 活 動 や 健 康 教 育 の 充 実	N P O ・ ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 等 の 活 性 化	災 害 時 な ど に 地 域 で 助 け 合 う 体 制 づ く り	そ の 他	現 状 の ま ま で よ い	特 に な い
全 体	2633	65.9	38.6	37.8	63.3	21.7	14.5	48.0	2.6	1.5	2.5
病院や介護施設等で生活している人のみいる	204	66.7	31.9	36.8	64.2	21.1	14.2	46.6	3.9	1.5	2.5
在宅で一緒に生活している人のみいる	214	61.7	38.8	39.3	77.1	19.6	10.7	44.9	1.4	2.3	0.9
病院や介護施設で生活、在宅の両方がいる	11	81.8	45.5	36.4	81.8	63.6	27.3	63.6	-	-	-
介護を必要とする家族はいない	2159	66.7	39.6	37.9	61.8	22.0	15.0	48.6	2.6	1.4	2.6

(8) 「ユニバーサルデザイン」の認知状況

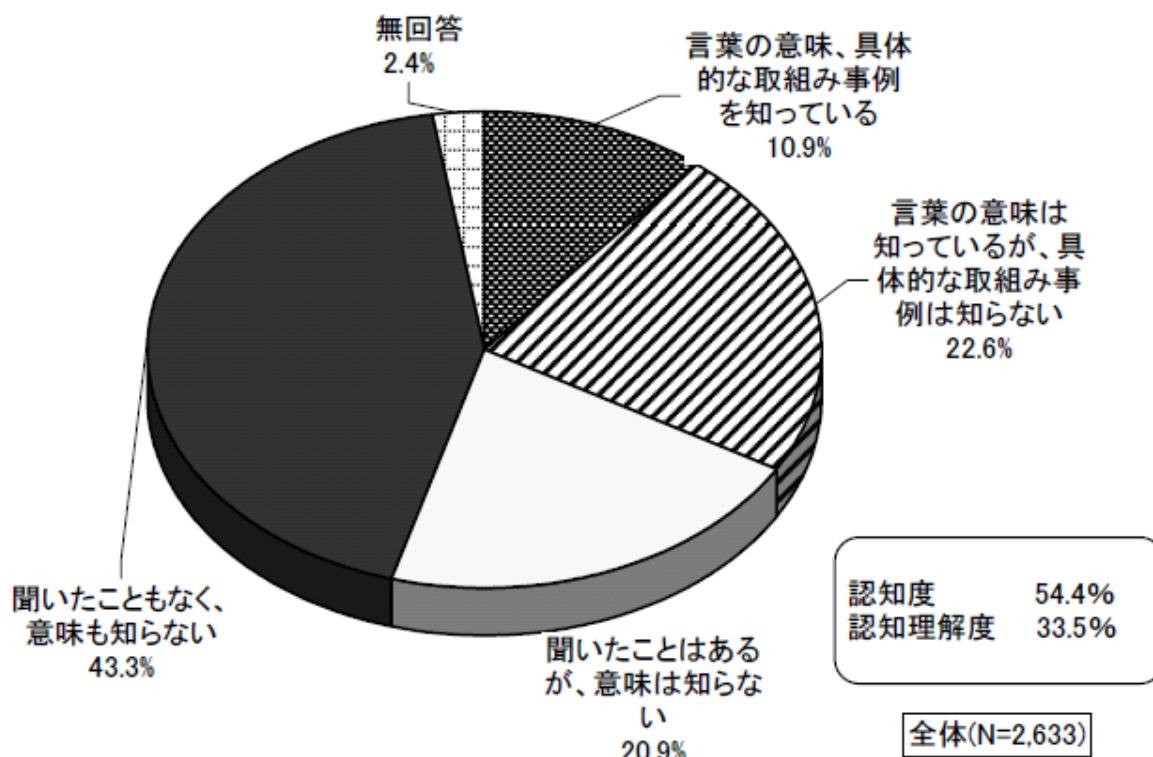
問21. 「ユニバーサルデザイン」についてどの程度知っていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

「ユニバーサルデザイン」の認知状況についてみると、「言葉の意味,具体的な取組み事例を知っている」と答えた人の割合は10.9%,「言葉の意味は知っているが,具体的な取組み事例は知らない」は22.6%,「聞いたことはあるが,意味は知らない」は20.9%,「聞いたこともなく,意味も知らない」は43.3%となっている。

上記結果より,「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っている人(認知度=「言葉の意味,具体的な取組み事例を知っている」+「言葉の意味は知っているが,具体的な取組み事例は知らない」+「聞いたことはあるが,意味は知らない」)は54.4%で,認知度は5割を超えている。

また,「ユニバーサルデザイン」の意味を知っている人(認知理解度=「言葉の意味,具体的な取組み事例を知っている」+「言葉の意味は知っているが,具体的な取組み事例は知らない」)は33.5%となっている。

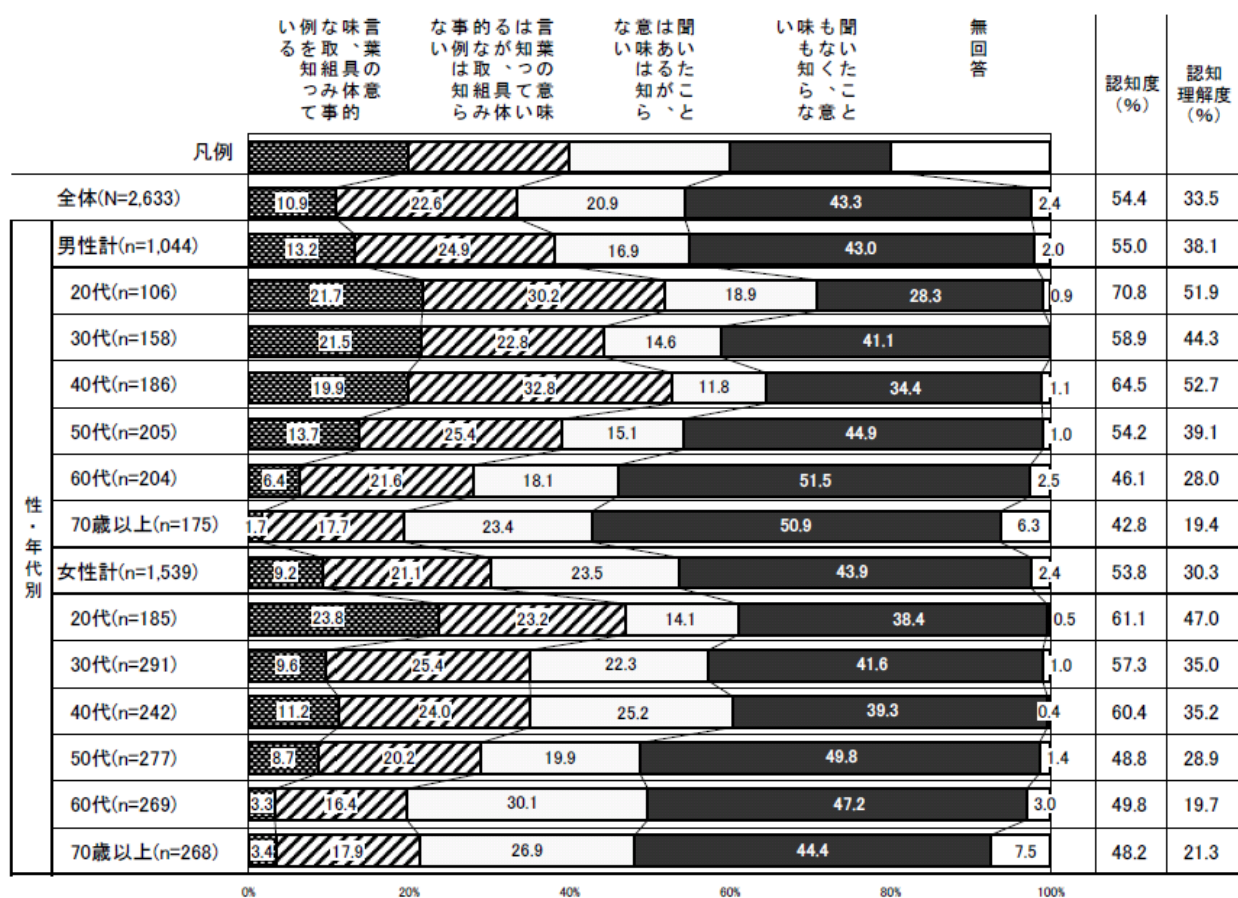
図表 「ユニバーサルデザイン」の認知状況【全体】



性別にみると、認知度は男性が55.0%、女性は53.8%と、いずれも5割を超えている。一方、認知理解度は男性が38.1%、女性は30.3%で、男性の方が女性よりも高くなっている。

性・年代別にみると、認知度は男性、女性ともに20代が最も高く、次いで40代、30代となっている。認知理解度については、男性は40代が52.7%で最も高く、次いで20代(51.9%)、30代(44.3%)、50代(39.1%)の順となっている。一方、女性は20代が47.0%で最も高く、次いで40代(35.2%)、30代(35.0%)、50代(28.9%)の順となっている。

図表「ユニバーサルデザイン」の認知状況【性・年代別】

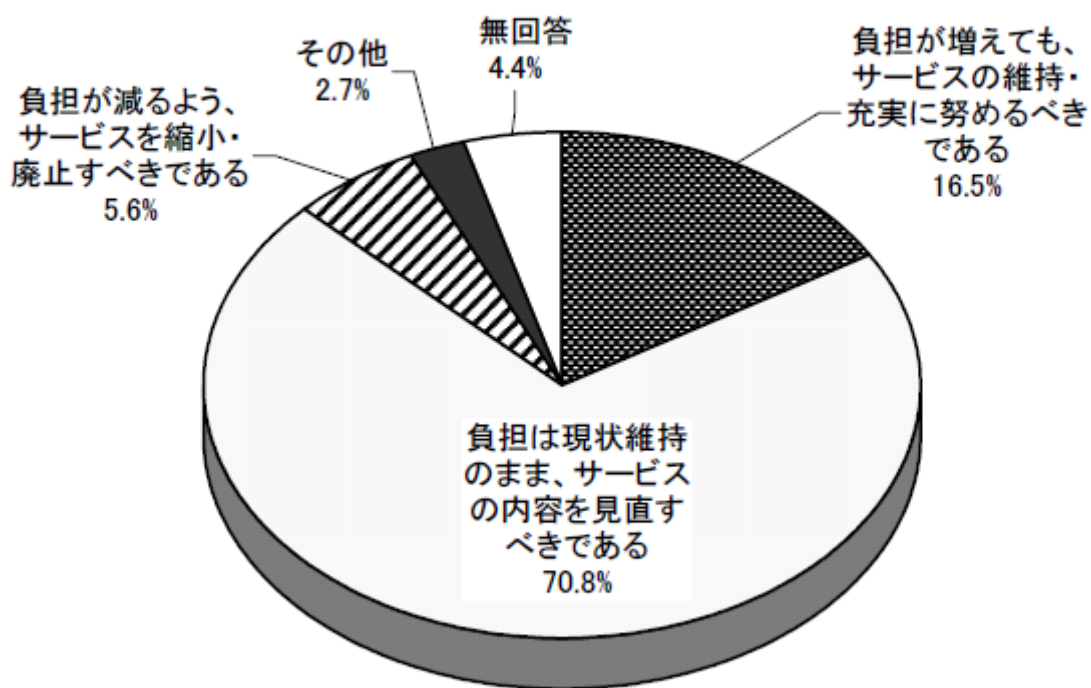


(9) 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについて

問22. 福岡市が提供する健康・医療・福祉サービスの水準と、その財源として市民が負担する税金などのバランスについて、あなたのお考えに最も近いのは、次のどの意見ですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについてきいたところ、「負担が増えても、サービスの維持・充実に努めるべきである」と答えた人の割合は16.5%、「負担は現状維持のまま、サービスの内容を見直すべきである」は70.8%、「負担が減るよう、サービスを縮小・廃止すべきである」は5.6%となっており、税金などの負担は現状を維持してサービス内容を見直すべきと考える人が7割と最も多くみられる。

図表 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについて【全体】

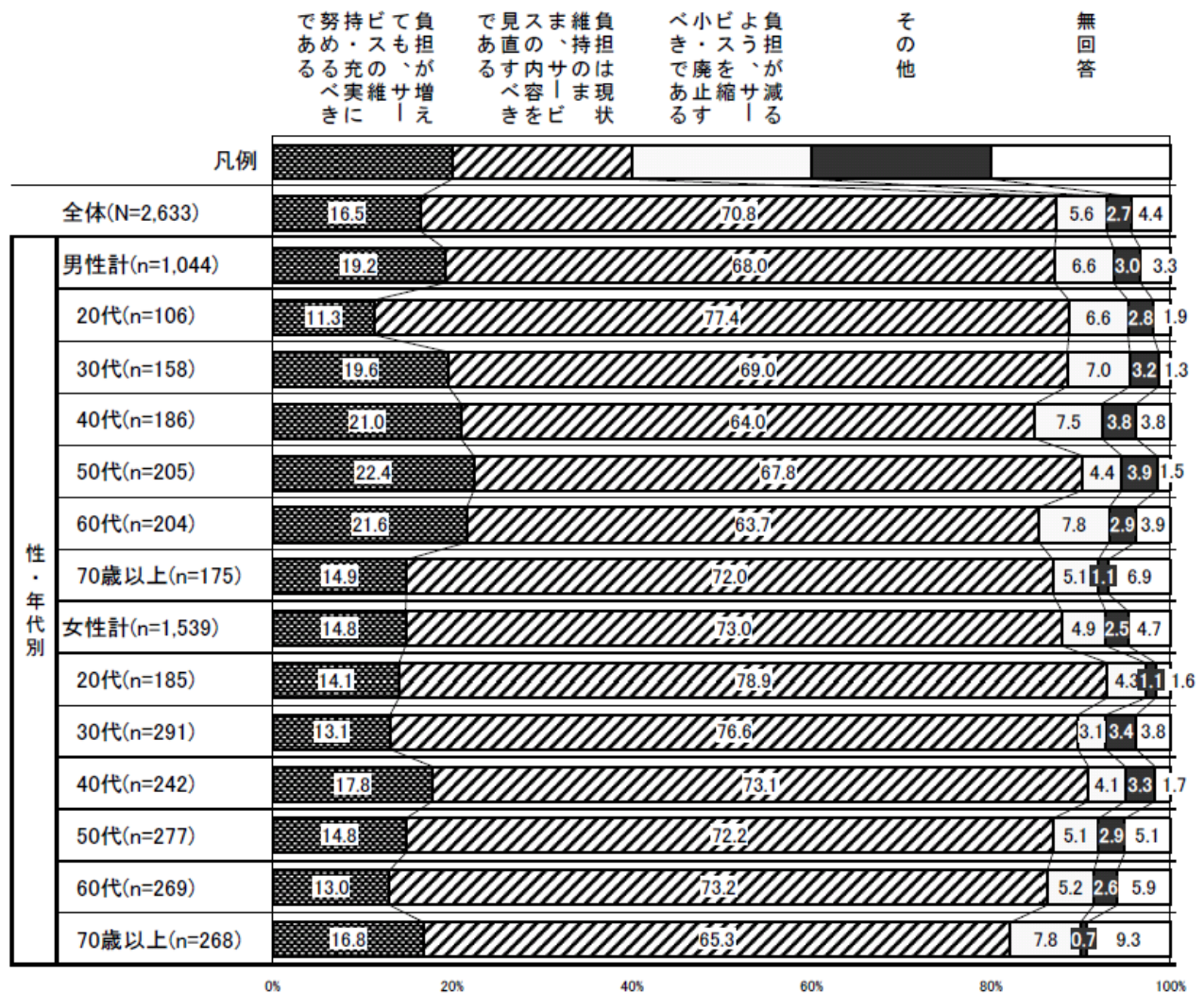


全体(N=2,633)

性別にみると、男性と女性では大きな違いはなかった。

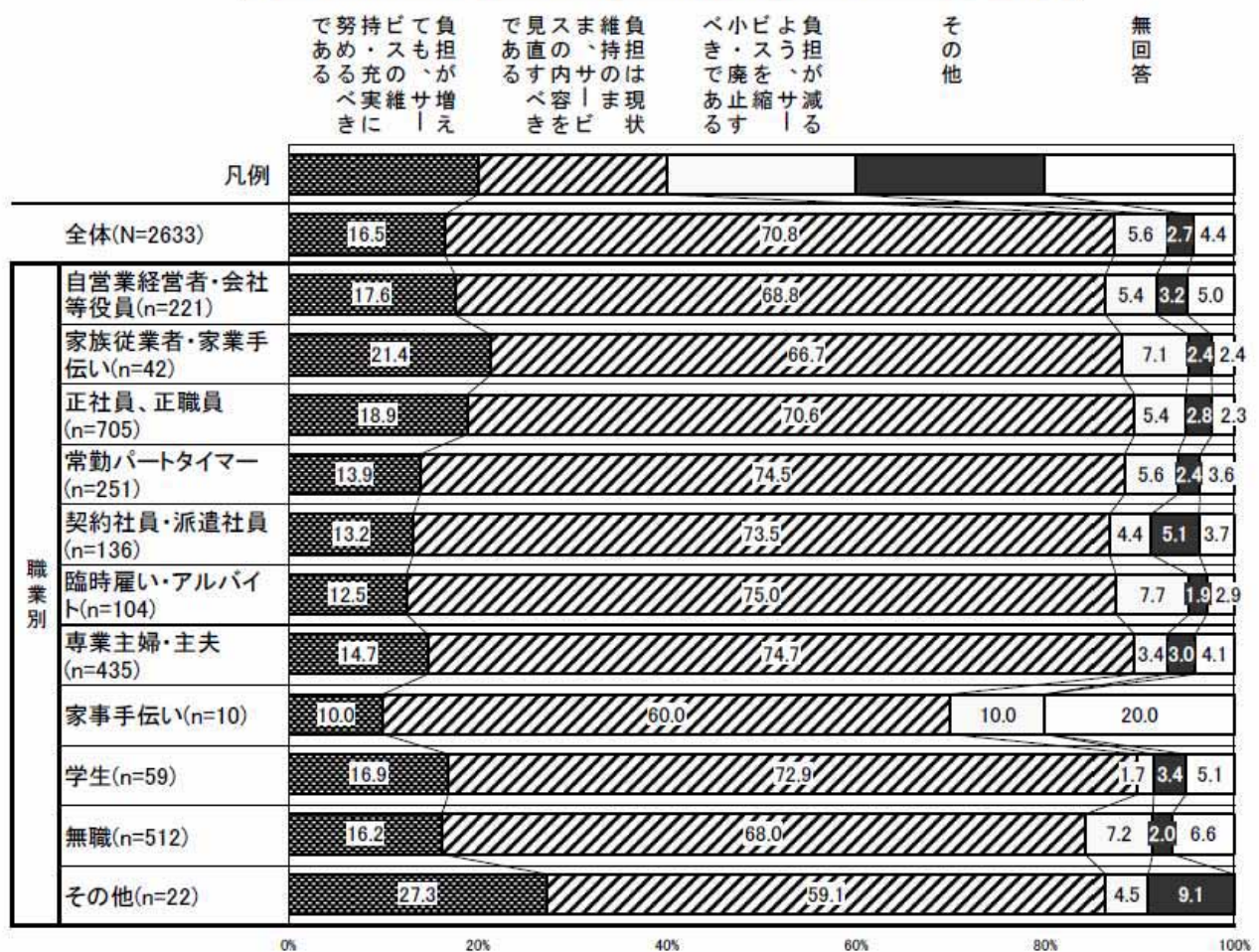
性・年代別にみると、男性の30代から60代では「負担が増えても、サービスの維持・充実に努めるべきである」が相対的に高く、社会保険料や税金を負担する層がサービスの充実に重視している傾向がうかがえる。

図表 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについて【性・年代別】



職業別にみると、「常勤パートタイマー」，「契約社員・派遣社員」，「臨時雇い・アルバイト」，「専業主婦・主夫」などの非正規雇用者においては，「負担は現状維持のまま，サービスの内容を見直すべきである」がやや高い。一方で，「自営業経営者・会社等役員」，「家族従業者・家業手伝い」，「正社員，正職員」では「負担が増えても，サービスの維持・充実に努めるべきである」がやや高く，雇用が安定している方が負担増を認める傾向がある。

図表 健康・医療・福祉サービスの水準と税金のバランスについて【職業別】

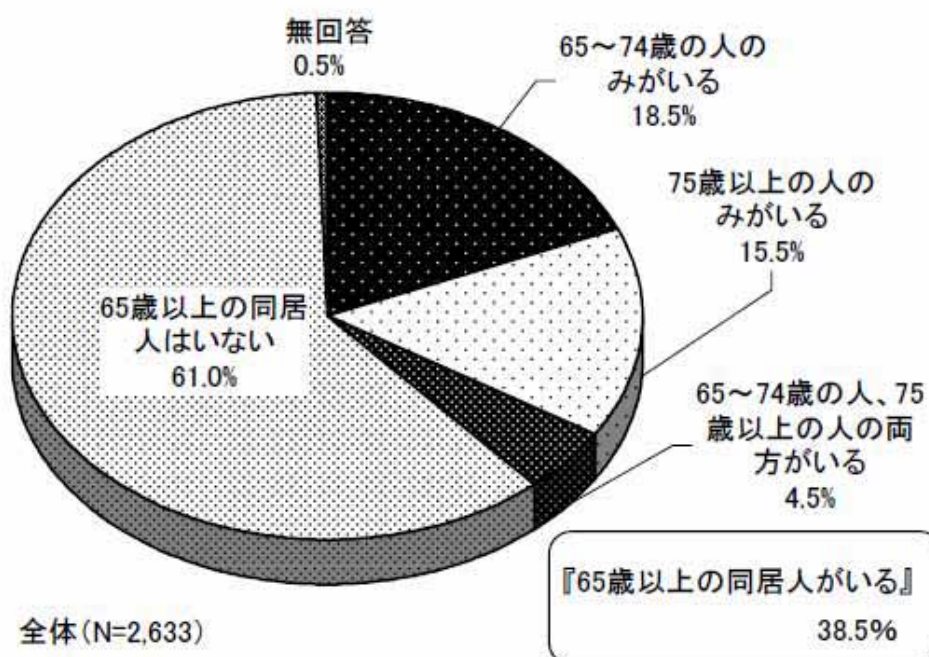


(10) 65 歳以上の同居人の有無

問23 .現在同居しているご家族に65 歳以上の方はいますか(あなたご自身も含みます)。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

65 歳以上の同居人の有無についてきいたところ，「65～74 歳の人のみがいる」人の割合は18.5%，「75 歳以上の人のみがいる」人は15.5%，「65～74 歳の人，75 歳以上の人両方がいる」人は4.5%となっている。これより，『65 歳以上の同居人がいる』人(= 「65～74 歳の人のみがいる」+ 「75歳以上の人のみがいる」+ 「65～74 歳の人 ,75 歳以上の人両方がいる」)の割合は38.5%となっている。

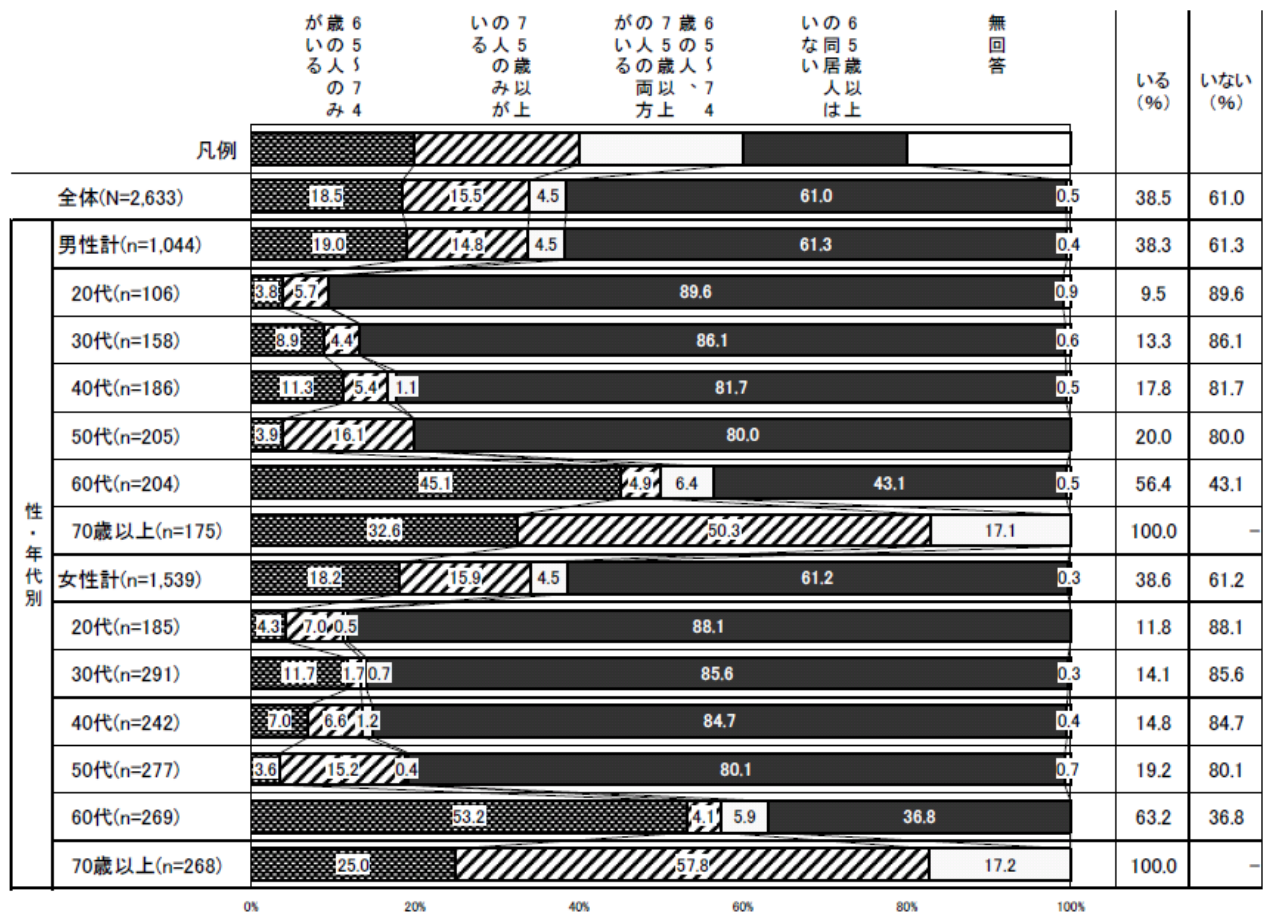
図表 65 歳以上の同居人の有無【全体】



性別にみると、『65 歳以上の同居人がいる』人は、男性が38.3%、女性は38.6%となっており、性別による差はほとんどみられない。

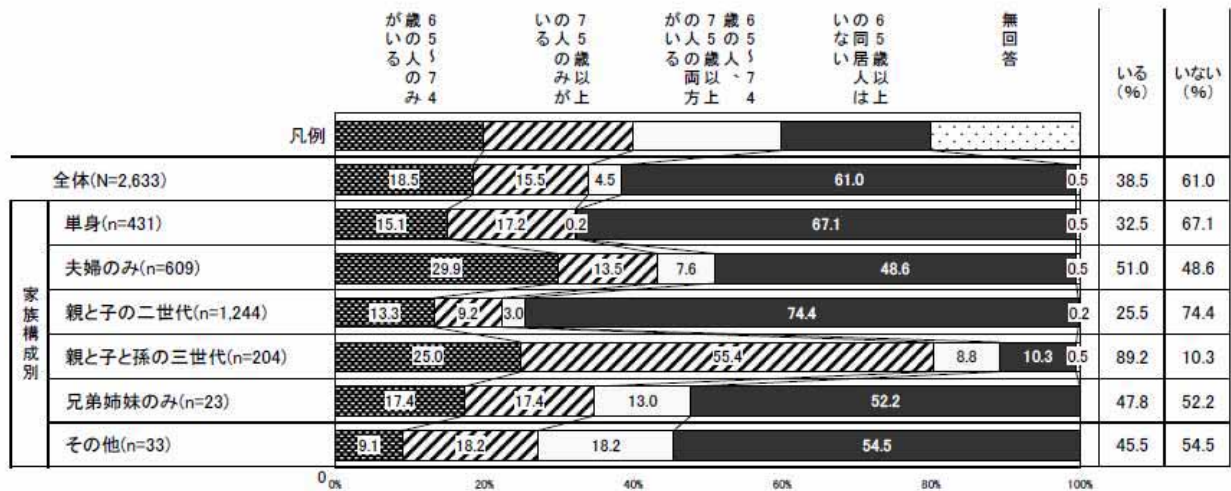
性・年代別にみると、男性、女性ともに『65 歳以上の同居人がいる』と回答した人の割合は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

図表 65 歳以上の同居人の有無【性・年代別】



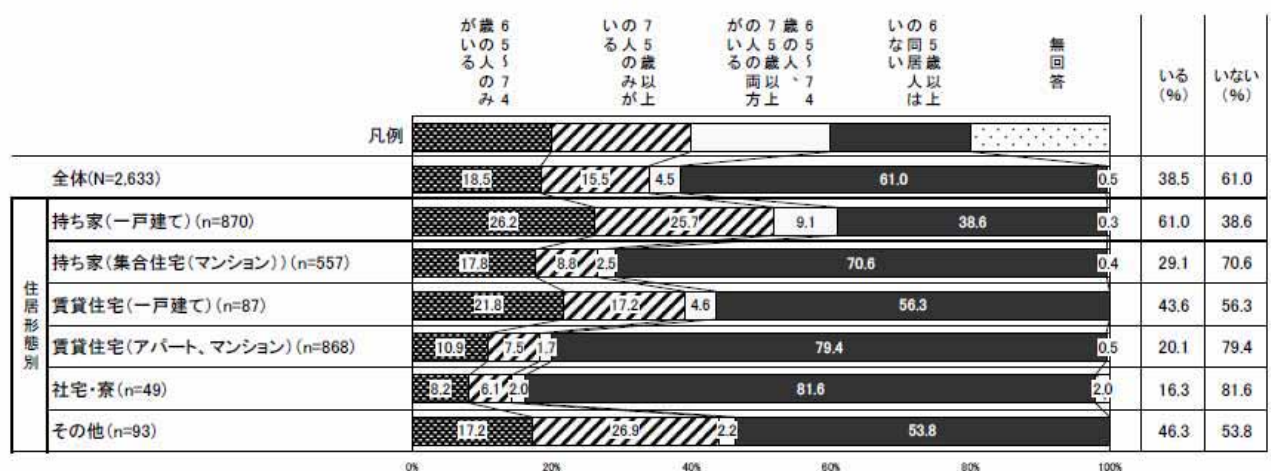
家族構成別にみると、『65 歳以上の同居人がいる』人の割合は、「親と子と孫の三世代」が89.2%と群を抜いて高く、次いで「夫婦のみ」(51.0%)、「兄弟姉妹のみ」(47.8%)の順となっている。

図表 65 歳以上の同居人の有無【家族構成別】



住居形態別にみると『65 歳以上の同居人がいる』人の割合は「持ち家（一戸建て）」が61.0%で最も高く、次いで「賃貸住宅（一戸建て）」(43.6%)、「持ち家（集合住宅（マンション））」(29.1%)の順となっており、『持ち家』や『一戸建て』の割合が高い傾向がみられる。

図表 65 歳以上の同居人の有無【住居形態別】

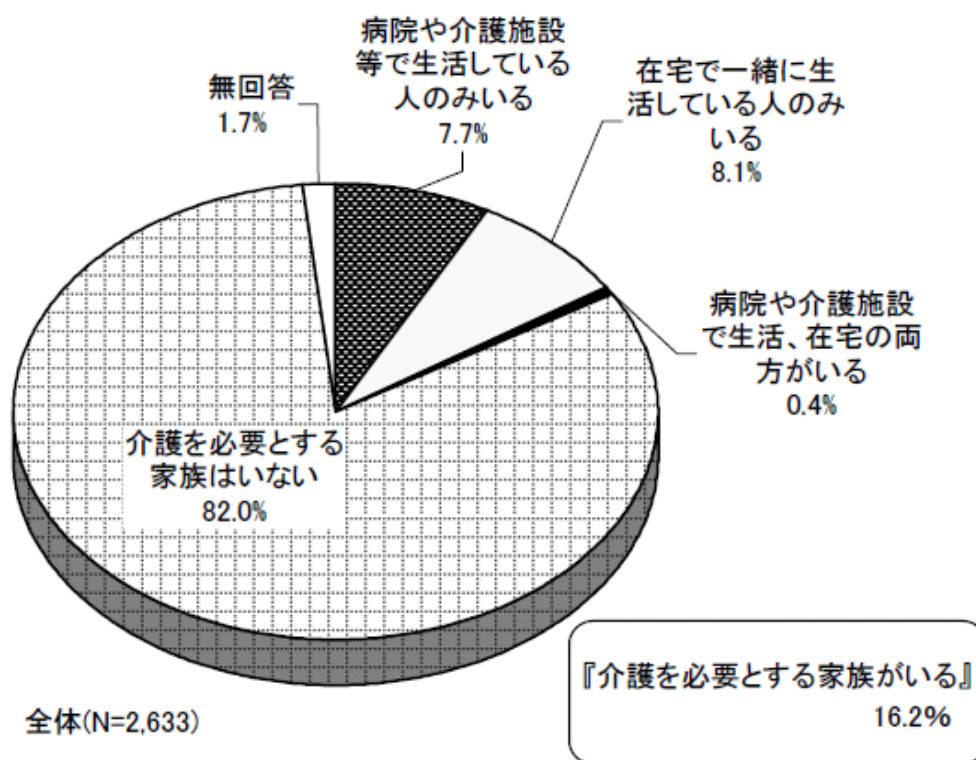


(11) 介護を必要とする家族の有無

問2 4 . ご家族（あなた自身は含みません）に，高齢や障がい等のために，介護を必要とする方はいますか。あてはまるものをすべて選び，番号に○をつけてください。

介護を必要とする家族の有無についてきいたところ，「病院や介護施設等で生活している人のみいる」人の割合は7.7%，「在宅で一緒に生活している人のみいる」人は8.1%，「病院や介護施設で生活，在宅の両方がいる」人は0.4%となっている。これより，『介護を必要とする家族がいる』人（＝「病院や介護施設等で生活している人のみいる」＋「在宅で一緒に生活している人のみいる」＋「病院や介護施設で生活，在宅の両方がいる」）の割合は16.2%となっている。

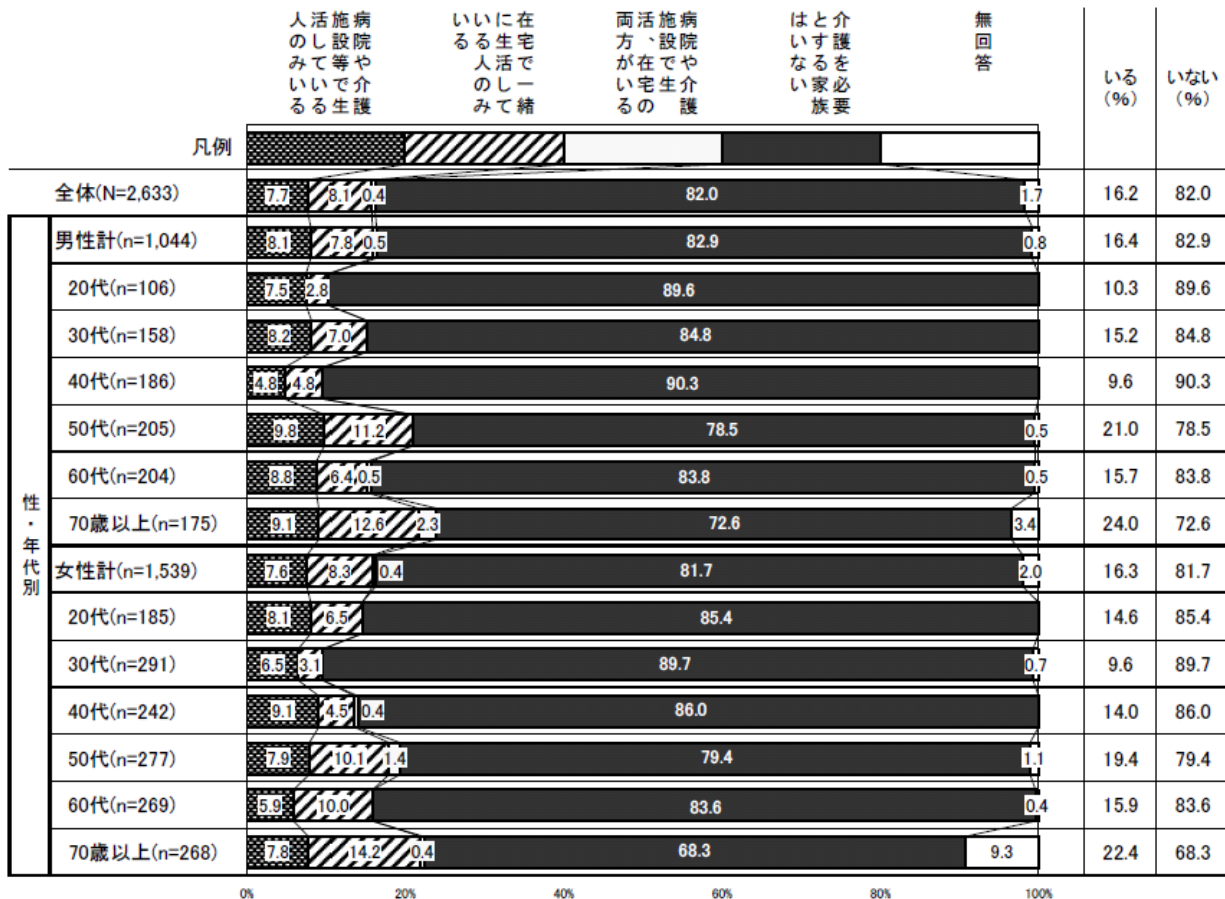
図表 介護を必要とする家族の有無【全体】



性別にみると、『介護を必要とする家族がいる』人の割合は、男性が16.4%，女性は16.3%となっており、ほとんど差はみられない。

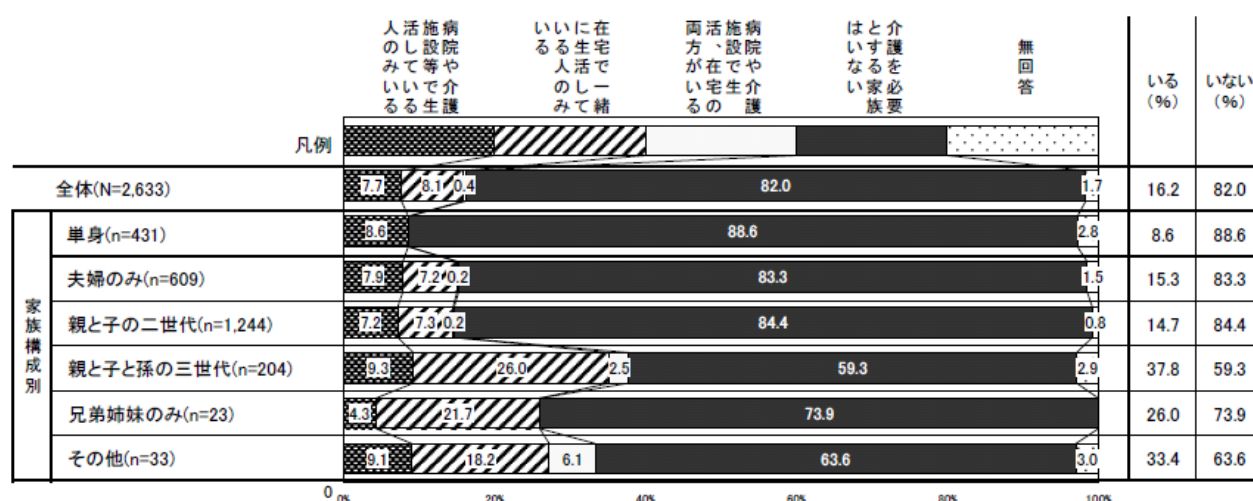
性・年代別にみると、男性、女性ともに70 歳以上は『介護を必要とする家族がいる』人が2 割以上で最も高く、老老介護の傾向がみられる。

図表 介護を必要とする家族の有無【性・年代別】



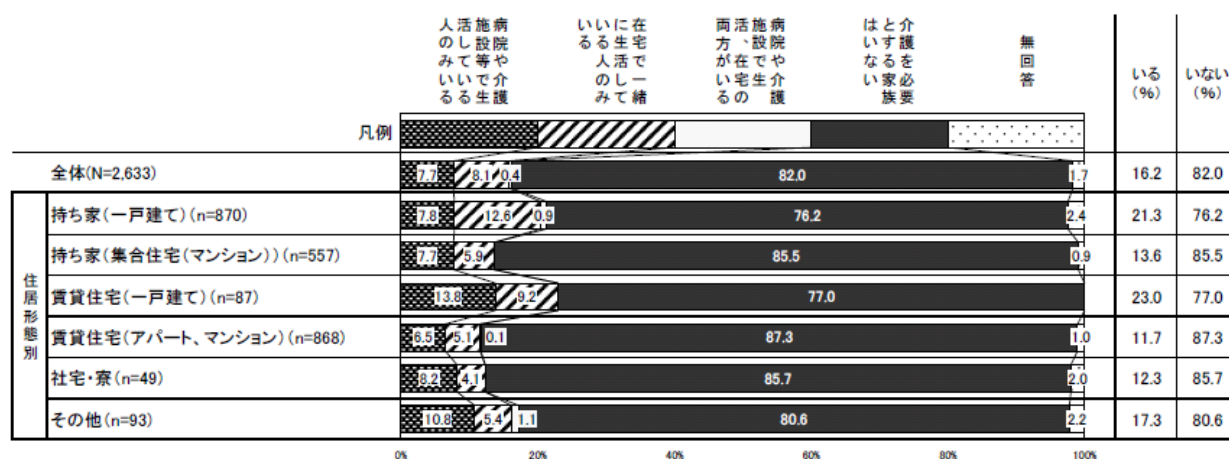
家族構成別にみると、『介護を必要とする家族がいる』人の割合は「親と子と孫の三世代」が37.8%で最も高く、次いで「兄弟姉妹のみ」(26.0%)の順となっている。この2世帯以外は『介護を必要とする家族がいる』人の割合が2割以下となっている。

図表 介護を必要とする家族の有無【家族構成別】



住居形態別にみると、『介護を必要とする家族がいる』人の割合は「賃貸住宅(一戸建て)」が23.0%で最も高く、次いで「持ち家(一戸建て)」(21.3%)の順となっており、いわゆる一戸建ての人のみ2割を超えている。

図表 介護を必要とする家族の有無【住居形態別】



平成 21 年度
市政に関する意識調査
平成 22 年 3 月発行

発行 福岡市市長室広聴課
福岡市中央区天神一丁目 8 番 1 号
TEL (092) 711-4067
FAX (092) 733-5580
E-mail: kocho.MO@city.fukuoka.lg.jp



再生紙を使用
しています。